

仙台市文化財調査報告書第378集

# 桜ヶ岡公園遺跡

—第4次発掘調査報告書—

2010年11月

仙台市教育委員会



# 序 文

仙台市の文化財行政に対して、日頃から多大なご理解・ご協力をいただき、感謝申しあげます。

市内には、旧石器時代から近世に至るまで、文化財が多く残されています。当教育委員会といたしましては、市民の皆様からのご理解・ご協力のもと、これらの文化財を保存・活用し次世代へ継承していくように努めています。

桜ヶ岡公園は、市街地の中にある公園で、仙台市民の憩いの場所になっています。公園内施設の老朽化や高速鉄道東西線の駅を建設されることなどから、平成19年度から桜ヶ岡公園内では再整備事業が行われています。公園内における再整備事業に先立ち、平成22年度に実施した桜ヶ岡公園遺跡第4次調査の結果を本報告書に収録しています。桜ヶ岡公園がある周辺地域は、江戸時代の絵図から伊達家家臣の屋敷地であったことが知られています。

今回の調査では、一部近世のものと考えられる遺構を確認した他、肥前産磁器、大堀相馬産陶器など近世から近代にかけての遺物が出土しました。中でも、県内では3例目となる鍋島焼や、中国産磁器が出土している点は、伊達家の上級家臣の屋敷跡であったと考えられる、今回の調査地点の性格を裏付ける重要な成果であるといえます。

本報告書が学術研究はもとより、市民の皆様にも広く活用され、地域の歴史と文化財に関心を抱く契機になれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査ならびに本報告書刊行に際しまして、ご協力・ご助言いただきました方々に、深く感謝申しあげます。

平成22年11月

仙台市教育委員会

教育長 青沼 一民

## 例 言

1. 本書は西公園再整備事業に伴い実施された桜ヶ岡公園遺跡第4次調査の報告書である。
2. 発掘調査は、仙台市教育委員会の委託を受け、株式会社四門仙台支店が行なった。
3. 本書の作成は、仙台市教育委員会生涯学習部文化財課 鈴木隆・庄子裕美の監理のもとに、株式会社四門仙台支店 関根信夫が担当した。本書の執筆は、鈴木が第1章第1節を、関根が第1章第2節～6章を行なった。
4. 調査及び報告書作成にあたり、下記のデジタル機器・ソフトウェアを使用した。

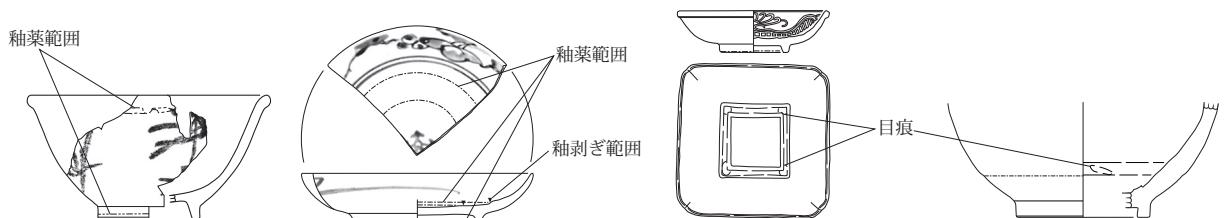
測量・遺構計測	マーキュリー エヴォルート（株式会社ウチダデータ）
遺構図・遺構実測図編集	photoshop・illustrator (Adobesystems)
報告書作編集・作成	InDesign (Adobesystems)
	Word・Excel (Microsoft)
5. 出土した遺物の鑑定に際しては、佐藤 洋（仙台市文化財課）の協力を得た。
6. 本調査の実施及び報告書の作成に際し、仙台市建設局百年の杜推進部公園課、青葉区役所公園課よりさまざまなご協力を賜った。記して謝意を表す次第である。
7. 発掘調査に関わる一切の資料は、仙台市教育委員会が保管している。

## 凡 例

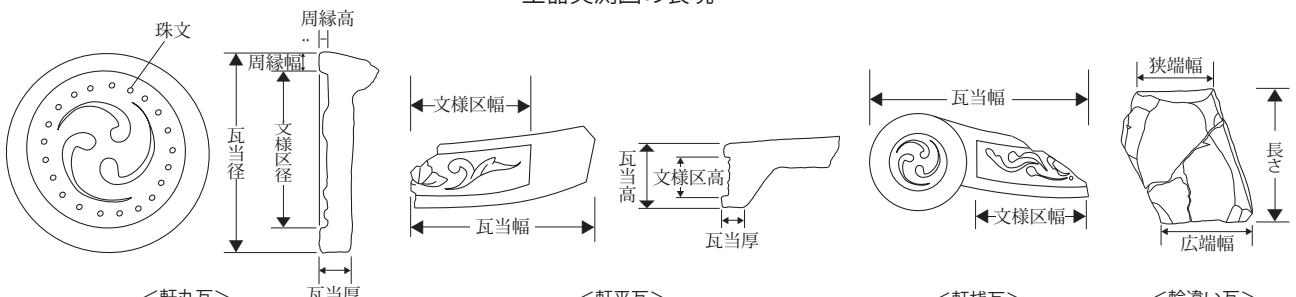
1. 本書の土色は、新版標準度色帖（農林水産省農林水産技術会議事務局2005年版）に準拠している。
2. 本書中の第2章第1図は国土地理院発行の2万5千分の1地形図「仙台北東部」「仙台北西部」「仙台南東部」「仙台南西部」を使用した。
3. 図中のグリッド値は、日本測地系座標を使用して図示した。
4. 本文図版等で使用した方位はすべて座標北を基準としている。
5. 標高地は海拔高度（T.P）を示す。
6. 遺構図は縮尺1/60を基本とした。その他、各図のスケールを参照されたい。
7. 基本層の表記はローマ数字を用いた。
8. 遺構名の略号は、SD:溝跡、SK:土坑、SX:その他の遺構、P:ピットを使用した。
9. 遺構に主軸方位は、長軸および長軸と想定される方位を主軸方位とした。
10. 遺物の登録・整理及び報告書での表示には、以下の分類と略号を使用した。

F:軒丸瓦、G:軒平瓦、H:他の瓦、I:陶器・土師質土器、J:磁器、N:金属製品、P:土製品

11. 遺物実測図は原則として土器1/3、瓦1/5で図示した。その他、各図のスケールを参照されたい。
12. 遺物実測図において、外形線・中心線・稜線は実線で表した。破片の遺物においては、転回し、図上復元したものもある。



土器実測図の表現



瓦計測基準

# 目 次

序 文

例 言

凡 例

第1章 調査概要	1
1. 調査に至る経緯	1
2. 調査要項	1
第2章 遺跡の立地と環境	1
1. 地理的環境	1
2. 歴史的環境	2
第3章 調査の方法と経過	4
1. 調査区の設定と調査方法	4
2. 調査経過	8
第4章 基本層序	8
第5章 調査区の遺構と遺物	8
第6章 まとめ	37
引用参考文献	39
写真図版	
報告書抄録	

## 挿図目次

第 1 図 桜ヶ岡公園遺跡の位置と周辺の遺跡	2	第 18 図 56 トレンチ平面図・断面図	18
第 2 図 絵図・地図による調査区周辺の変遷	3	第 19 図 57 トレンチ平面図・断面図	19
第 3 図 調査区トレンチ配置図	5	第 20 図 58 トレンチ平面図・断面図	20
第 4 図 調査区土層柱状図	7	第 21 図 69 トレンチ平面図・断面図	20
第 5 図 1 トレンチ平面図・断面図	9	第 22 図 73 トレンチ平面図・断面図①	22
第 6 図 16 トレンチ平面図・断面図	10	第 23 図 73 トレンチ平面図・断面図②	23
第 7 図 17 トレンチ平面図・断面図	10	第 24 図 74 トレンチ平面図・断面図	25
第 8 図 18 トレンチ平面図・断面図	11	第 25 図 75 トレンチ平面図・断面図	25
第 9 図 21 トレンチ平面図・断面図	12	第 26 図 80 トレンチ平面図・断面図	26
第 10 図 24 トレンチ平面図・断面図	12	第 27 図 出土陶磁器実測図(1)	28
第 11 図 25 トレンチ平面図・断面図	14	第 28 図 出土陶磁器実測図(2)	29
第 12 図 26 トレンチ平面図・断面図	14	第 29 図 出土陶磁器実測図(3)	30
第 13 図 30 トレンチ平面図・断面図	15	第 30 図 出土陶磁器実測図(4)	31
第 14 図 39 トレンチ平面図・断面図	15	第 31 図 出土瓦実測図・出土銭貨拓影図	32
第 15 図 50 トレンチ平面図・断面図	17	第 32 図 「安政絵図」の屋敷地と調査範囲	38
第 16 図 54 トレンチ平面図・断面図	17	第 33 図 明治元年現状仙台城市之図	38
第 17 図 55 トレンチ平面図・断面図	17		

## 表目次

第1表 トレンチ別遺構・遺物数量表	27
第2表 陶磁器観察表(1)	33
第3表 陶磁器観察表(2)	34
第4表 陶磁器観察表(3)	35
第5表 瓦観察表	36
第6表 金属製品 古銭観察表	36
第7表 金属製品 釘観察表	36
第8表 土製品観察表	36

## 図版目次

写真図版 1	43
写真図版 2	44
写真図版 3	45
写真図版 4	46
写真図版 5	47
写真図版 6	48
写真図版 7	49
写真図版 8	50
写真図版 9	51
写真図版 10	52
写真図版 11	53
写真図版 12	54
写真図版 13	55
写真図版 14	56
写真図版 15	57

## 第1章 調査の概要

### 1. 調査に至る経緯

今回の発掘調査は、宮城県仙台市青葉区桜ヶ岡公園内における西公園再整備事業に伴い実施したものである。桜ヶ岡公園（西公園）は、明治7（1874）年につくられた、仙台市で最初の近代的な公園である。様々な催し物の会場や花見の行楽地などとして市民に親しまれてきたが、園内施設の老朽化や高速鉄道東西線事業の予定路線内に入ることなどから、仙台市建設局百年の杜推進部公園課では平成19年度から28年度にかけて、段階的に再整備していくことになった。

平成19～20年には、高速鉄道東西線路線・西公園駅舎工事に伴う調査が行われた（第1次調査）。また平成19年には、旧仙台市西公園野球場を中心とした公園整備に伴い、公園課と協議の上で調査を行った（第2次調査）。平成20年には旧仙台市西公園野球場ならびに桜ヶ岡公園南側を中心とした公園整備に伴い、公園課と協議の上で調査を行なった（第3次調査）。

今回の第4次調査は、第2次調査に先立ち平成19年2月23日付け、建百公第291号で提出された発掘通知（平成19年2月26日付け、教生文第113-48号で回答）に基づき、実施した。この発掘通知により示された「西公園再整備事業」に係る協議を、仙台市建設局百年の杜推進部公園課と仙台市教育委員会文化財課が行い、公園北半部において整備により掘削が行われる3,374m<sup>2</sup>を対象に、今回の調査を実施することとなった。

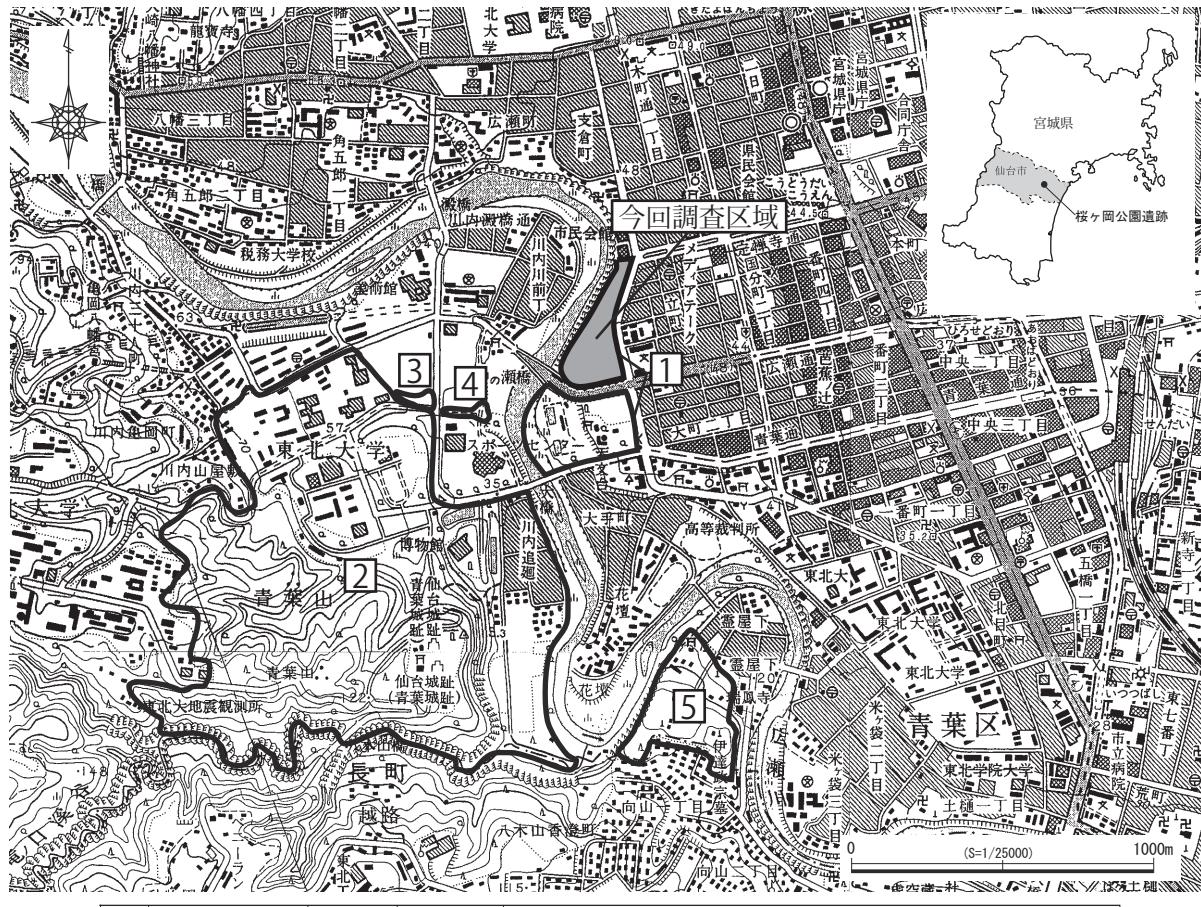
### 2. 調査要項

遺跡名称	桜ヶ岡公園遺跡（宮城県遺跡地名登録番号01562）
所在地	宮城県仙台市青葉区桜ヶ岡公園3-1、3-2地内
調査原因	西公園再整備事業に伴う埋蔵文化財の事前調査
調査主体	仙台市教育委員会
調査担当	文化財課調査指導係主事 鈴木 隆 文化財課調査指導係主事 庄子 裕美
調査組織	株式会社四門 仙台支店 調査員 関根 信夫 調査補助員 百瀬 貴子 計測員 関谷 実
調査期間	平成22年5月27日～8月31日
調査対象面積	3374m <sup>2</sup>
調査面積	421m <sup>2</sup>

## 第2章 遺跡の立地と環境

### 1. 地理的環境

桜ヶ岡公園遺跡は、JR仙台駅の西約1.7kmに位置し、仙台市青葉区桜ヶ岡公園内にある。東西約350m、南北約650mを範囲とし、面積は約10haである。2004年に高速鉄道東西線建設に伴う試掘調査で遺構が確認され、



番号	遺跡名	種別	時代	備考
1	桜ヶ岡公園遺跡	屋敷跡	縄文、近世	
2	仙台城跡	城館跡	中、近世	国指定史跡・国定天然記念物「青葉山」を含む
3	川内A遺跡	屋敷跡	縄文、近世	
4	川内B遺跡	屋敷跡	近世	
5	経ヶ峯伊達家墓所	墓所	近世	伊達政宗・忠宗・綱宗の墓所 1974、1981、1983年に発掘調査 忠宗墓に中世板碑を使用

第1図 桜ヶ岡公園遺跡の位置と周辺の遺跡

2007年に遺跡として登録された。本遺跡は広瀬川の左岸に形成された中町段丘面の西端域に立地しており、今回の調査地点は国道48号線の北側に位置し、遺跡範囲の北半部に相当する。調査地点の現状は公園である。調査地点の標高は約46.4mである。

## 2. 歴史的環境

桜ヶ岡公園遺跡の位置する広瀬川周辺には近世を中心とした遺跡が分布している(第1図)。仙台城跡は、初代仙台藩主伊達政宗の築城による山城である。1998年度の調査で、現存する石垣の背後から築城当初の石垣が検出され、三期にわたる石垣の変遷と各時代の詳細な内部構造が明らかにされている。仙台城跡登録範囲の北部と東部は武家屋敷地にあたり、広瀬川右岸に位置する追廻地区では、伊達家の重臣である片倉家の屋敷絵図に描かれた池の可能性がある遺構が検出され、仙台城東南端の土地利用の状況が確認されている。川内A遺跡・川内B遺跡は、仙台城周辺に配置された大身武家屋敷地の一部であり、高速鉄道東西線建設に伴う試掘調査で遺構が検出され、遺跡登録されている。仙台城周辺の近世遺跡の中で本遺跡は広瀬川左岸にあり、江戸時代を通じて大身武家の屋敷地として利用されていることが、第2図の絵図・地図からうかがえる。



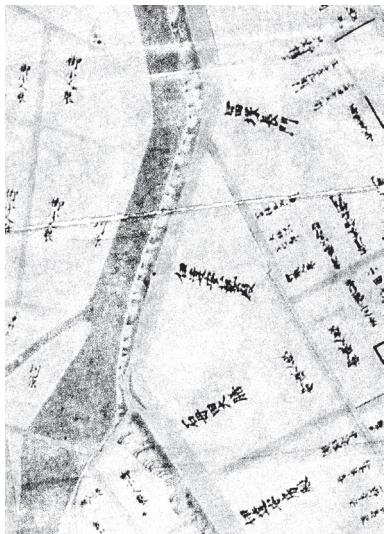
1. 奥州仙台城絵図(正保2・3(1645・1646)年)  
(財) 斎藤報恩会蔵



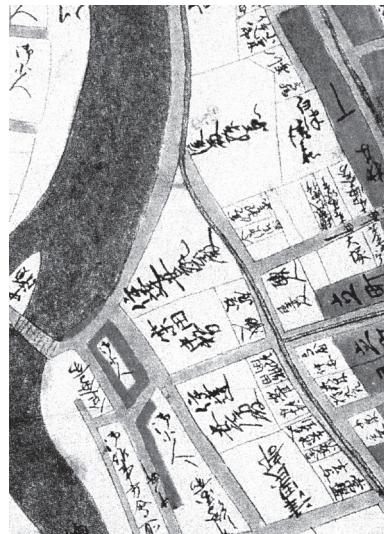
2. 仙台城下絵図(寛文4(1664)年) 宮城県図書館蔵



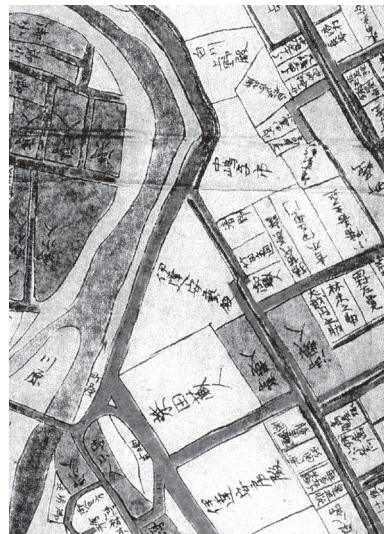
3. 仙台城下絵図(延宝~天和(1673~1684)年間)  
仙台市歴史民俗資料館蔵



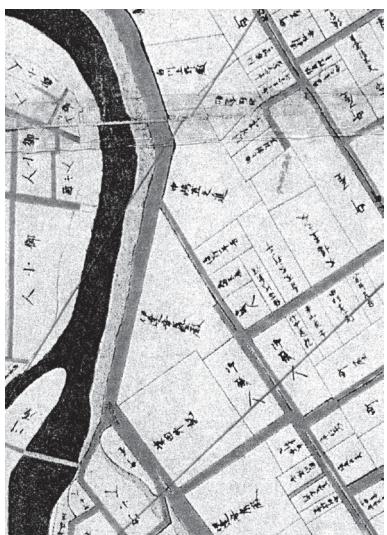
4. 仙台城下五釐卦絵図(元禄4・5(1691・1692)年)  
(財) 斎藤報恩会蔵



5. 仙台城下絵図(享保9(1724)年) 東北歴史博物館蔵



6. 仙台城下絵図(宝暦~明和(1751~1772)年間)  
(財) 斎藤報恩会蔵



7. 仙台城下絵図(天明6~寛政元(1786~1789)年)  
仙台市博物館蔵



8. 安政補政改革仙府絵図(安政3~6(1856~1859)年)  
第二師団司令部蔵



9. 仙台市全図(明治44年) 風の時編集部蔵

※上が北方向

第2図 絵図・地図にみる調査区周辺の変遷(註1)

正保2・3(1645・1646)年の『奥州仙台城絵図』(第2図-1)は、現存する絵図の中で屋敷地割が残る最古のものである。調査地点にあたる位置のほとんどが「侍屋敷」の表記であるが、南東隅部に当たる区画に「職人屋敷」の表記がみえる。文字頭の向きから屋敷入り口はすべて西側に向いているものとみられ、広瀬川左岸沿いに門構えが並んでいたものとみられる。屋敷地割りがすでに確立していたとみられる。

寛文4(1664)年の『仙台城下絵図』(第2図-2)ではY字状の道に挟まれた三角地に「伊達安藝殿」、その南の区画に「石母田織部」の表記がみえる。「伊達安藝殿」は、寛文事件(伊達騒動)で知られる伊達宗重を輩出した涌谷伊達氏を指す。石母田家とともに一門の家格をもって列せられる伊達家筆頭の家臣である。その後の絵図から幕末までこの地を屋敷地としていたことがうかがえる。

延宝～天和(1673～1684)年間の『仙台城下絵図』、元禄4・5年(1691・1692)年の『仙台城五釐掛絵図』(第2図-3・4)では、北東側に「富塚□□」、「富塚長門」の名がみえる。富塚家は宿老の家柄であったが、その後の絵図では当該地にその名は見えず、調査区域の北側に位置するこの区画は後藤家、中嶋家へとその主が変遷していく。

享保9(1724)年の仙台城下絵図(第2図-5)では伊達安芸屋敷の南には石母田家に代わり「柴田中務」の表記が見える。伊達家家老職も務めた柴田家は、その後の絵図から幕末までここを屋敷地としていたことが看取される。

『仙台城五釐掛絵図』以後の絵図から伊達安芸屋敷の東側道路内に仙台藩の用水施設である四ツ谷堰の水路が描かれている(第2図-6・7)。

安政3～6(1856～1859)年の『安政補政改革仙府絵図』(第2図-8)では、それまで調査区域の南東側にあたる「職人屋敷」「御職人」と表記されていた区画に11軒の棟割長屋が描かれ、武士階級とみられる姓名が連なっている。それまで表記されていた伊達家のお抱え職人である「御職人」が屋敷替えされていたことがうかがえる。

明治時代に入ると大身武家屋敷地は明治政府に接収され、明治19(1886)年に、調査区南側に位置する区画に陸軍将校の親睦団体である仙台偕行社が設立された。偕行社の建物は外観が洋風でありながら、細部に和風建築の特徴が見られる擬洋風建築による建物であった。昭和3(1928)年には東北産業博覧会の第二会場の一部として利用され、同年に調査区中央に位置する区画に赤レンガのライト建築の校舎をもつ常盤木学園高等女学校が設立された。これらの近代建物は昭和20(1945)年7月の仙台空襲によってすべて灰燼に帰した。

戦後は昭和23年の戦災復興都市計画に際し、西公園の一画として整備され、現在に至っている。

### 第3章 調査の方法と経過

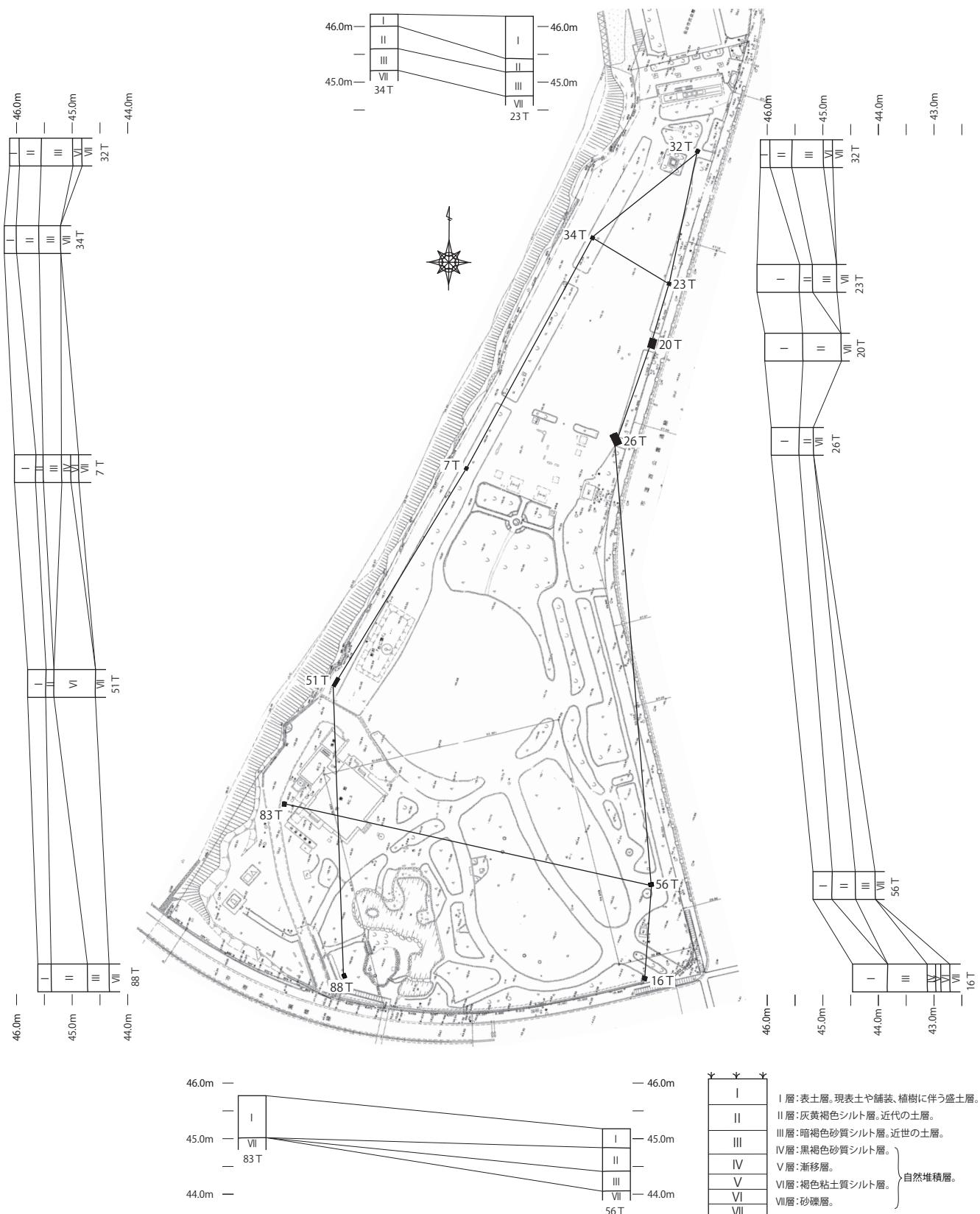
#### 1. 調査区の設定と調査方法(第3図)

今回実施した発掘調査は、西公園再整備事業に伴う事前調査である。西公園再整備事業の際に設置される照明灯(48ヶ所、工事掘削深度150cm)、ハンドホール(9ヶ所、工事掘削深度140cm)、雨水溝(総延長1000m、工事掘削深度130cm)の埋設予定範囲と園内舗装範囲(工事掘削深度15～50cm)を対象として計88箇所のトレチを設定し、総面積約421m<sup>2</sup>を掘削して調査を行なった。調査の方法は、重機による表土、攪乱掘削ののち、人力による掘削と精査を行なった。調査は明確な基盤層が認められない場合、埋設物を設置する際の掘削深度を調査目標深度とした。目標深度以下で検出された遺構は、確認調査のみとして遺構掘削作業は行なわず、目標深度以内で検出した遺構については本調査を実施した。園内樹木や水道管などの現況埋設物により重機掘削が困難なトレチに関しては、現況維持を優先し、サブトレチを掘削して基本層序の確認に調査の主眼を置いた。その



第3図 調査区トレーンチ配置図





第4図 調査区土層柱状図

ため、工事掘削深度を超えて部分的に明確な基盤層まで掘り抜いた箇所がある。

図面の作成は、平面図及び地形測量はトータルステーションによる三次元計測を行ない、土層断面図及び遺物出土状況微細図は手描き図面に加えて写真計測を併用して行なった。写真撮影は 35mm リバーサル・モノクロフィルム及びデジタルカメラを用いた。

## 2. 調査経過

調査は開放された公園内で行なうことから公園課との協議により即日埋戻しを目標とし、公園内における市民の利用と安全の妨げにならないように心がけた。5月 27 日に現場事務所を設置し、5月 31 日から重機を搬入して調査を開始した。トレーニング名称は調査順に付した。6月中は公園東側の入口舗装範囲と公園西・北縁部、7月は公園中央広場から旧図書館北側グラウンド周辺、8月は公園南側植樹範囲を中心にトレーニングを設定して調査を実施した。8月 5、6 日は仙台七夕花火祭りの会場として公園が使用されたため安全策を講じた上で調査を一時中断した。8月 9 日に調査を再開し、8月 31 日までに調査区の埋め戻し、現場撤収作業を完了し、調査を終了した。

## 第4章 基本層序(第4図)

基本層は大別 7 層に分かれる。I 層は表土（層厚 15cm～30cm）で、公園整備に伴う砂層や植樹に伴う盛土層である。II 層は黄褐色シルト層（層厚 10cm～30cm）で、瓦礫、焼土を多量に含む昭和 20 年の仙台空襲に関わる II a 層と、焼土を含まない II b 層の 2 種類に細別できる。III 層は暗褐色砂質シルト層（層厚 15cm～50cm）で、近世遺物が主に出土する層である。III a～III c 層の 3 種類に細別される。II、III 層はトレーニングにより整地層を含めるとさらにその層数が増す箇所もある。IV 層は黒褐色砂質シルト層（層厚 5cm～20cm）で、やや粘性をおびる自然堆積層である。V 層は褐色砂質シルト層（層厚 5cm～20cm）で漸移層である。VI 層は褐色粘土質シルト層（層厚 5 cm～30cm）となっており、VII 層は砂礫層である。遺構検出面は II、III 層上面が主である。

基本層が全て確認されたトレーニングではなく、埋設予定深度を超えて掘りぬいても VI 層が厚いトレーニングもあれば、II 層直下から VII 層が検出される場合もあり、層序は一様でない。

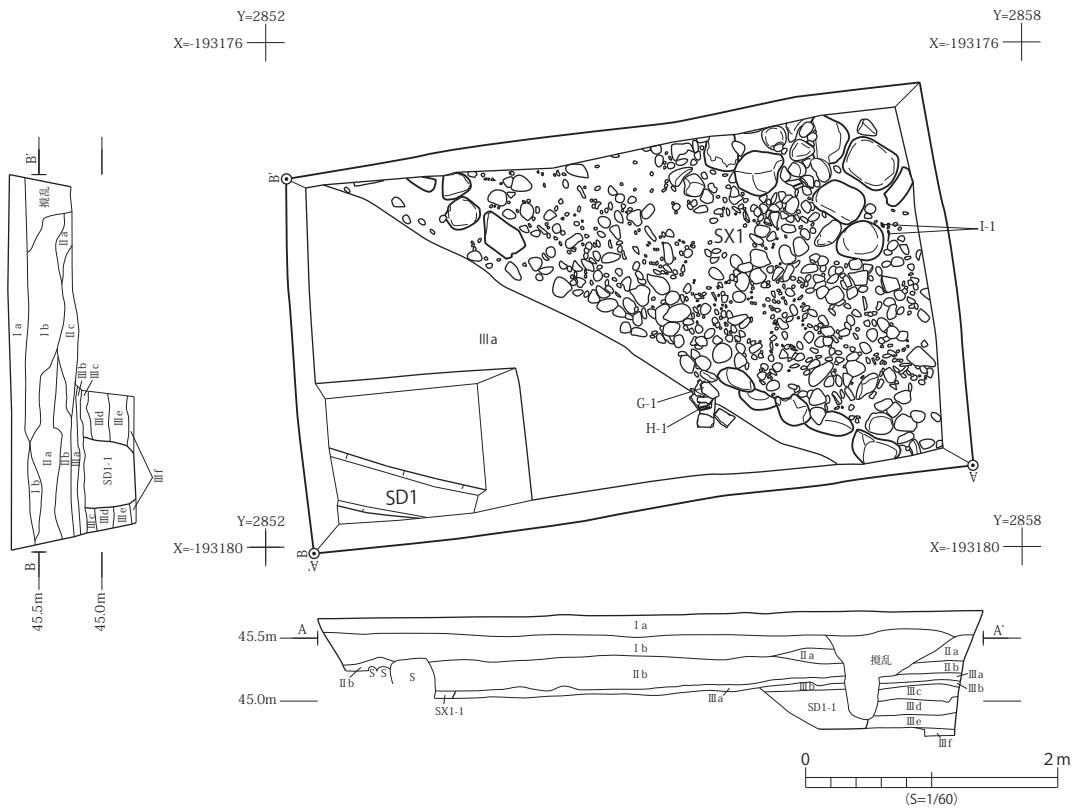
明確な基盤層といえる VII 層の検出面の標高は、南北方向でみると調査区北西端に近い 34 トレーニングでは約 45.2 m であるのに対し、南東部に位置する 16 トレーニングでは約 44.1 m である。調査区の立地が河岸段丘ということで旧地形も広瀬川の流れにそって南東方向に緩やかに傾斜しており、調査範囲の平坦な現況と異なることがうかがえる。

## 第5章 調査区の遺構と遺物

今回の調査では、溝跡 2 条、土坑 15 基、性格不明遺構 17 基、ピット 11 を検出した。検出遺構の総数は 45 である。遺物は I、II 層からの出土が大半を占めており、III 層及び遺構からの出土遺物はわずかであった。遺構が認められなかった調査区は、確認層位を出土遺物の数量内訳とともに第 1 表で示した。ここでは遺構を検出した調査区ごとに記述する。

### 1 トレーニング(第 5 図、写真図版 1 - i ~ v )

園内舗装計画に伴う調査で、調査面積は 15m<sup>2</sup> (3.0 × 5.0 m) である。基本層は I～III 層を確認した。表土下 35 cmまで重機掘削したところ、性格不明の礫集中範囲 1 基を検出した。工事掘削深度が 27cm であることから遺構検出までにとどめた。SX1 の南西、表土下 60cm で III a 層上面を確認し、SX1 の掘り方ラインを検出した。調査区南



層位	土色	土性	混入物・備考
I a	暗灰黄色 (2.5Y4/2)	山砂	公園通路の整地層。
I b	暗褐色 (10YR3/3)	砂質シルト	礫少量。I a層に伴う盛土層。
II a	暗赤褐色 (10YR5/6)	砂質シルト	礫中量。焼土少量。
II b	黒褐色 (10YR3/2)	砂質シルト	炭化物粒少量。焼土微量。
II c	黄褐色 (10YR5/6)	砂質シルト	礫多量。
III a	褐色 (10YR6/1)	砂質シルト	礫・炭化物微量。締まり強い。上面に被熱あり。整地層。
III b	褐灰色 (10YR5/1)	砂質シルト	礫・炭化物極微量。締まり強い。整地層。

層位	土色	土性	混入物・備考
III c	黒褐色 (10YR2/2)	砂質シルト	礫・炭化物微量。締まり強い。整地層。
III d	黒褐色 (10YR3/2)	砂質シルト	炭化物粒・VI層粒微量。整地層。
III e	褐色 (10YR4/6)	粘土質シルト	VI層土主体。炭化物粒微量。整地層。
III f	黒色 (7.5Y2/1)	粘土質シルト	炭化物粒・VI層粒微量。
SD1-1	暗褐色 (10YR3/3)	粘土質シルト	小礫・黃褐色粒・VI層粒少量。
SX1-1	黒褐色 (10YR3/2)	砂質シルト	礫・炭化物粒・VI層粒少量。掘り方理土。

第5図 1 トレンチ平面図・断面図

西隅にサブトレンチを設定し、層序確認のために重機掘削したところ、III c層上面から溝跡1条を検出した。遺物は近世の磁器、陶器、瓦質土器、土師質土器、瓦、近代の土師質土器が出土している（第27、31図）。

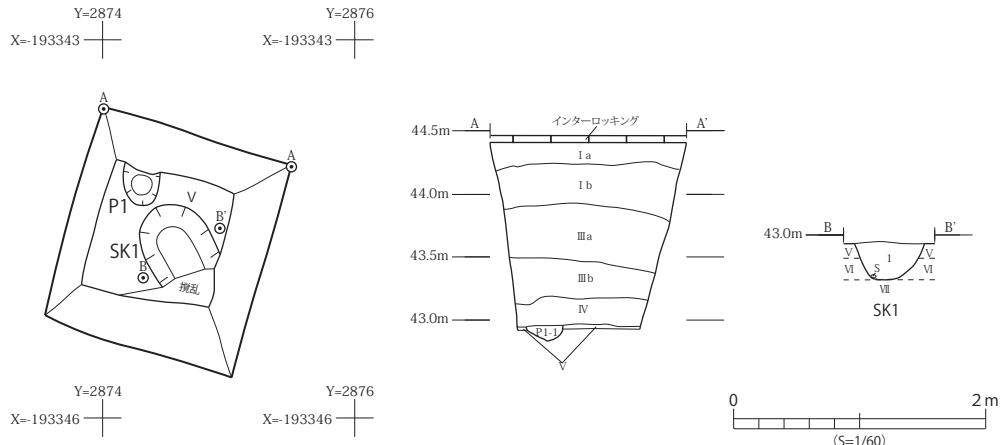
**SX1** 調査区東半部で検出した。平面規模は幅230cmで、主軸はN-60°-Wで北西から南東方向に斜行して調査区外へと続く。範囲の両側に20～40cmの大型礫を敷設して石列にしており、石列間には5～10cmの礫が充填されている。遺構検出にとどめたため、埋土の様相は不明である。遺物は近世の陶磁器、瓦が主である。

**SD1** 調査区南西隅のサブトレンチ内で検出した。規模は幅55cm、深さ35cm、断面箱形で、底面は平坦である。主軸はN-77°-Wで北西から南東方向に斜行して調査区外へ続く。堆積土は1層である。遺物は出土していない。

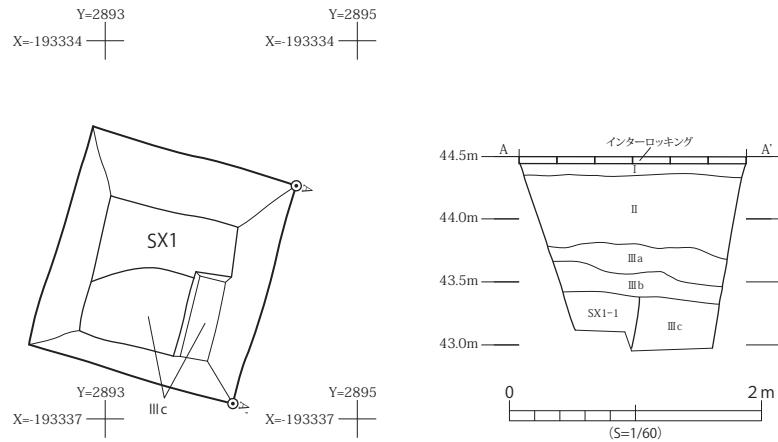
#### 16トレンチ（第6図、図版2- vi～viii）

照明灯設置計画に伴う調査で、調査面積は2.7m<sup>2</sup> (1.6×1.7m)である。基本層はI～VII層を確認した。III a層上面までの深度は表土下90cmである。表土下145cmでV層上面を確認し、調査区北壁にかかるピット1と、搅乱に切られる形で土坑1基を検出した。遺構掘削を行ない、遺構底面でVII層を確認した。遺物はI、II層から近世、近代の磁器、陶器、瓦が出土し、III層から近世の磁器、陶器が出土している（第27、28図）。

**SK1** 搅乱に切られている部分をのぞくと、平面形は橢円形を呈する。規模は55cm×60cm以上、深さは38cmである。堆積土は1層である。遺物は出土していない。



第6図 16 トレンチ平面図・断面図

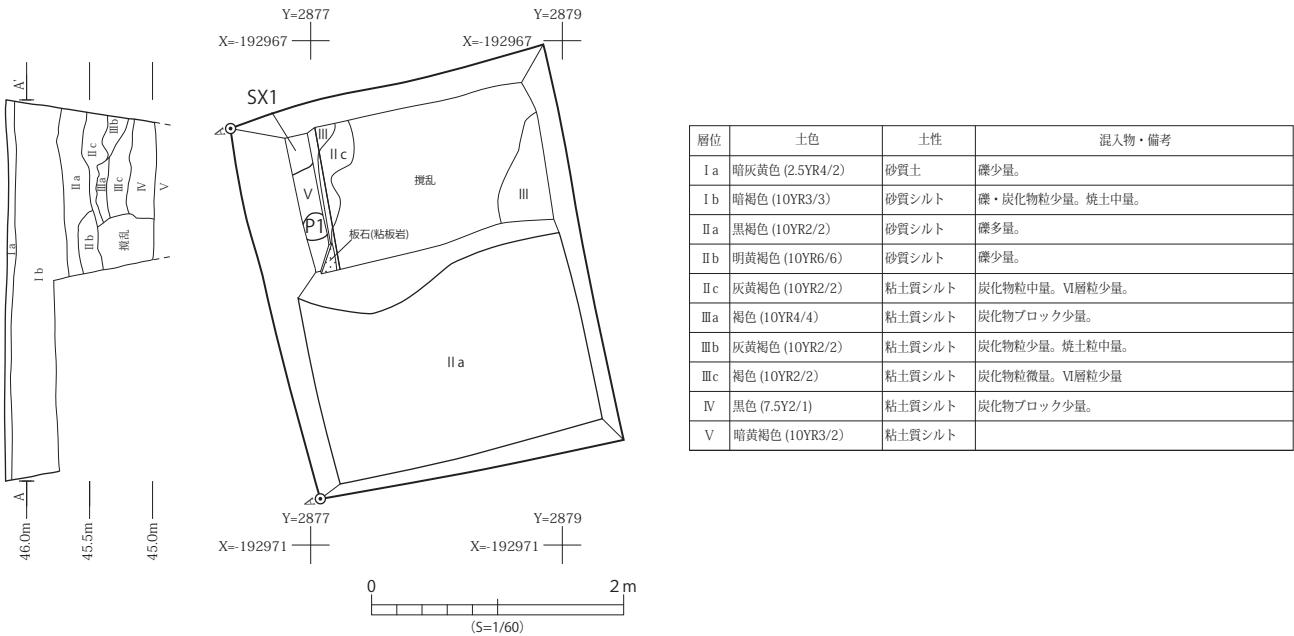


第7図 17 トレンチ平面図・断面図

P1 平面形が円形を呈し、規模は 28cm × 25cm 以上、深さは 30cm である。堆積土は 1 層である。遺物は出土していない。

#### 17 トレンチ (第7図、図版3-i, ii)

照明灯設置計画に伴う調査で、調査面積は 3.1m<sup>2</sup> (1.7 × 1.8 m) である。基本層は I ~ III 層を確認した。III a 層上面までの深度は表土下 78cm である。表土下 110cm の III c 層上面で SX1 を検出した。遺物は I 、 II 層から近世、近代の磁器、陶器が出土している。



第8図 18 トレンチ平面図・断面図

SX1 平面形は不明である。規模は 119cm × 75cm 以上で、深さは 43cm である。硬化した III c 層と一連の整地面と考えられる。遺物は出土していない。

#### 18 トレンチ (第8図)

園内舗装計画に伴う調査で、調査面積は 7.0m<sup>2</sup> (3.0 × 2.5 m) である。基本層は I ~ V 層を確認した。III a 層上面までの深度は 70cm である。調査区北半部を表土下 70cm まで重機掘削を行なったのち、西壁際にサブトレンチを設定して掘削を行なったところ、V 層上面で性格不明遺構 1 基、ピット 1 を検出した。工事掘削深度が 24cm であることから遺構検出のみにとどめた。遺物は I 、 II 層から近代の陶器、磁器、瓦が出土している。

SX1 平面形はサブトレンチでの検出により範囲が確定できず不明である。規模は 17cm 以上 × 26cm 以上で調査区外に続く。

P1 平面形は円形を呈するものとみられる。径 22cm である。

#### 21 トレンチ (第9図、図版3-iv)

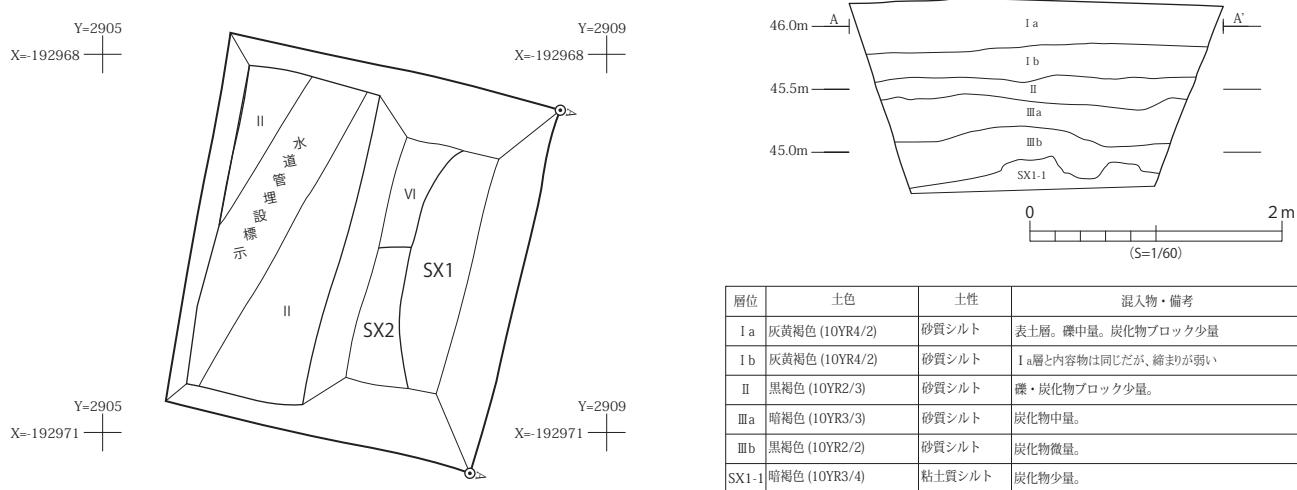
園内舗装計画に伴う調査で、調査面積は 7.0m<sup>2</sup> (3.0 × 2.5 m) である。基本層は I ~ III 、 VI 層を確認した。表土下 40cm まで重機掘削を行ない、調査区西側に水道管理設表示を確認した。調査区東壁際にサブトレンチを設定して層序確認を行なった。III a 層上面までの深度は表土下 75cm である。IV 、 V 層は確認されず、VI 層上面を表土下 155cm で確認し、性格不明遺構 2 基を検出した。工事掘削深度が 18cm であることから遺構検出のみにとどめた。遺物は近世、近代の磁器、陶器、瓦質土器、瓦が少量出土している。

SX1 平面形はサブトレンチでの検出により範囲が確定できず不明である。規模は 47cm 以上 × 195cm 以上で調査区外へ続く。SX2 を切る。遺物は出土していない。

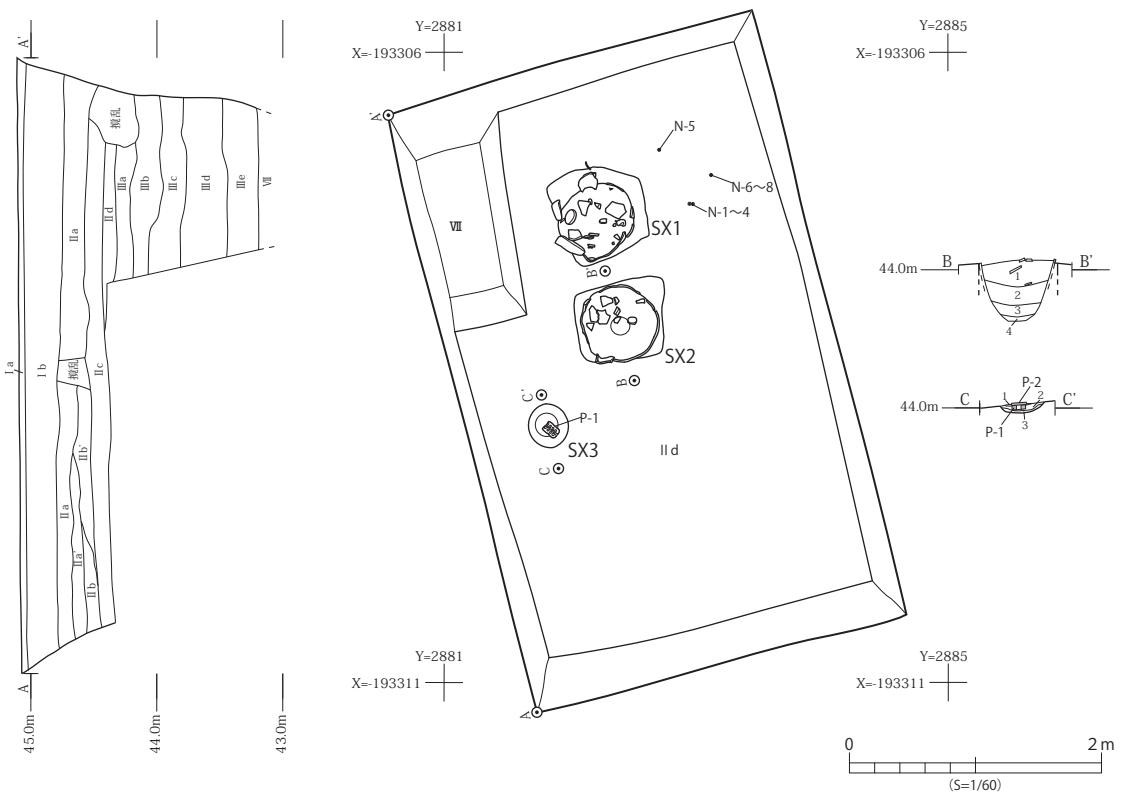
SX2 平面形はサブトレンチ内の検出により範囲が確定できず不明である。規模は 112cm 以上 × 52cm 以上で調査区外へ続く。SX 1 に切られる。遺物は出土していない。

#### 24 トレンチ (第10図、図版3-viii ~ 4-i)

園内舗装計画に伴う調査で、調査面積は 15.0m<sup>2</sup> (3.0 × 5.0 m) である。基本層は I ~ III 、 VII 層を確認した。III a 層上面までの深度は表土下 77cm である。表土下 70cm まで重機掘削を行なったところ、調査区北半部に II d 層から



第9図 21 トレンチ平面図・断面図



第10図 24 トレンチ平面図・断面図

埋設された堤焼大甕が南北方向に 2 基並んで検出した (SX1・2)。また、南東には鋳型とみられる土製品を含むピット状遺構を 1 基検出した (SX3)。工事掘削深度が 10cm であることから、SX1 は遺構検出のみにとどめ、SX 2、3 の遺構掘削を行なった。北西部にサブトレンチを設定し層序確認を行なった。遺物は古銭と近世、近代の磁器、陶器が出土した (第 28、31 図)。

SX1 75cm × 75cm の不整方形の掘り方に径 60cm の堤焼大甕を埋設しており、上面には近代の陶器、レンガ片を含む。SX1 は遺構検出のみに留めたが、遺構掘削を行なった SX2 と同じ様相であることから、便槽と考えられる。

SX2 69 × 75cm の不整方形の掘り方に径 60cm、深さ 50cm の堤焼大甕を埋設している。堆積土は 3 層である。SX1 と同様に上層に近代の陶器、レンガ片を含む。中層から焼けた土壁片が中量含まれる。甕底部内面に白色物質が被膜のように付着していることから、便槽と考えられる。

SX3 平面形が円形を呈し、規模は 35cm × 32cm、深さは 8cm である。断面皿形で、底面は丸底である。堆積土は 3 層である。上層に炭化物を多く含み、中、下層は鉄分を含み被熱して赤色化している。遺物は鋳型土製品が湯口と見られる土製品の上に重なるように出土した。

#### 25 トレンチ (第 11 図、図版 4- ii、iii)

園内舗装計画に伴う調査で、調査面積は 14.0m<sup>2</sup> (3.1 × 4.5 m) である。基本層は I、II、IV、V 層を確認した。表土下 40cm まで重機掘削を行なったが、搅乱を含む近代の盛土層であった。調査区北西部にサブトレンチを設定し層序確認を行なった。III 層は認められず IV、V 層を確認し、V 層上面でピット 1 ~ 3(各径 25cm) を検出した。工事掘削深度が 27cm であることから遺構検出のみにとどめた。遺物は近世、近代の磁器、陶器、瓦が少量出土した。

#### 26 トレンチ (第 12 図、図版 4- iv~vi)

園内舗装計画に伴う調査で、調査面積は 15.0m<sup>2</sup> (3.0 × 5.0 m) である。基本層は I ~ III、VII 層を確認した。III 層上面までの深度は 45cm である。調査区東半部から石列 (SX)1 基を検出した。石列の北側は弱電用ケーブルの埋設時に破壊されたものとみられ残存していない。また石列の中央部は、近代以後に構築されたコンクリート側溝とともに、公園内の水道管引き込み工事により破壊されている。調査区西側中央にサブトレンチを設定し層序の確認を行なった。遺物は近世、近代の磁器、瓦が少量出土した。

SX1 延長 3.4 m 分を検出した。東側に面を揃え、7 の石材が配置されている。石材は玄武岩質安山岩とみられる。石材は幅 25 ~ 60cm、控えが 40 ~ 60cm である。層序確認により、石列直下には VII 層がみられることから検出した石列は 1 段目であると考えられる。本来は 2 段目以上あったものと考えられるが、近代以後、コンクリート側溝が構築される前後に破壊されたものと考えられる。遺物は出土していない。

#### 30 トレンチ (第 13 図、図版 4- vii)

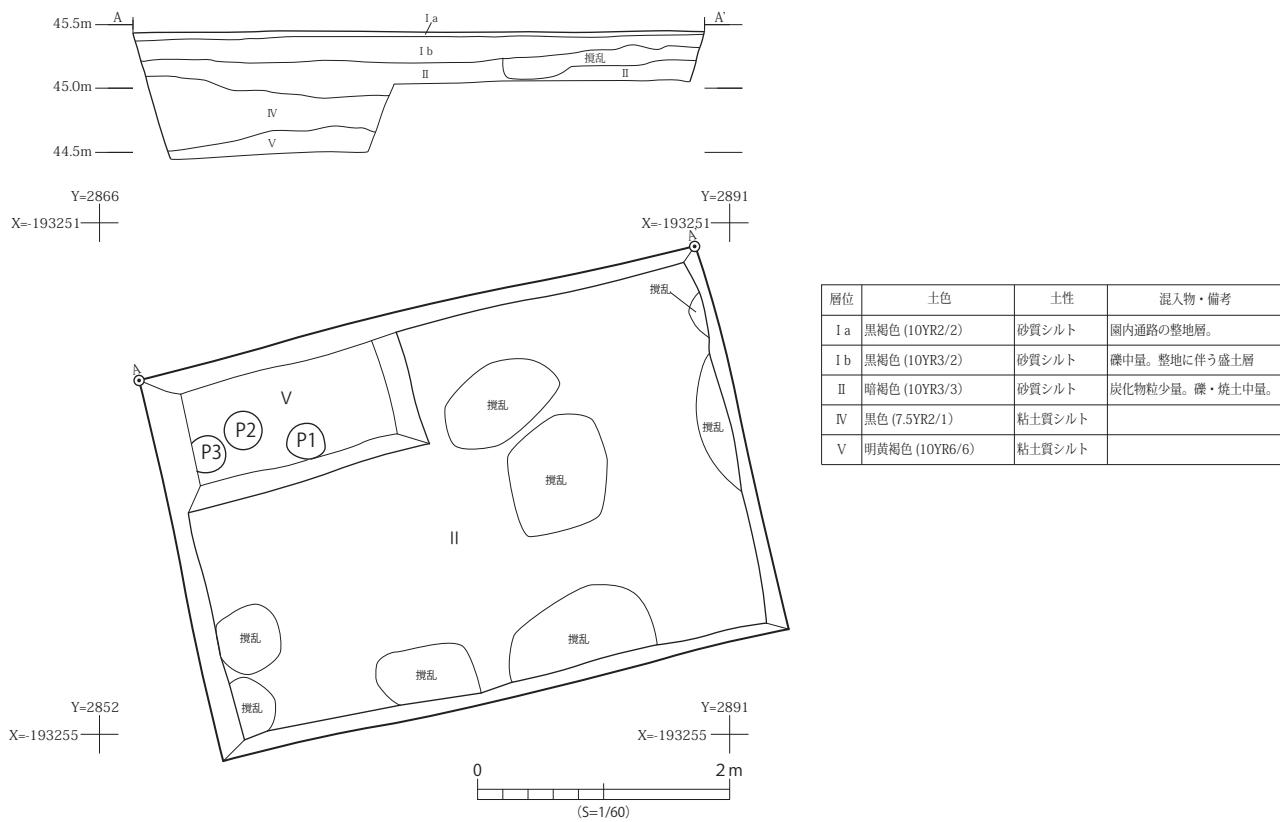
照明灯設置計画に伴う調査で、調査面積は 2.3m<sup>2</sup> (1.5 × 1.5 m) である。基本層は I ~ VI 層を確認した。III a 層上面までの深度は表土下 70cm である。

整地面とみられる III b 層上面からピット 1 を検出した。遺物は近代の磁器、瓦が少量出土した。

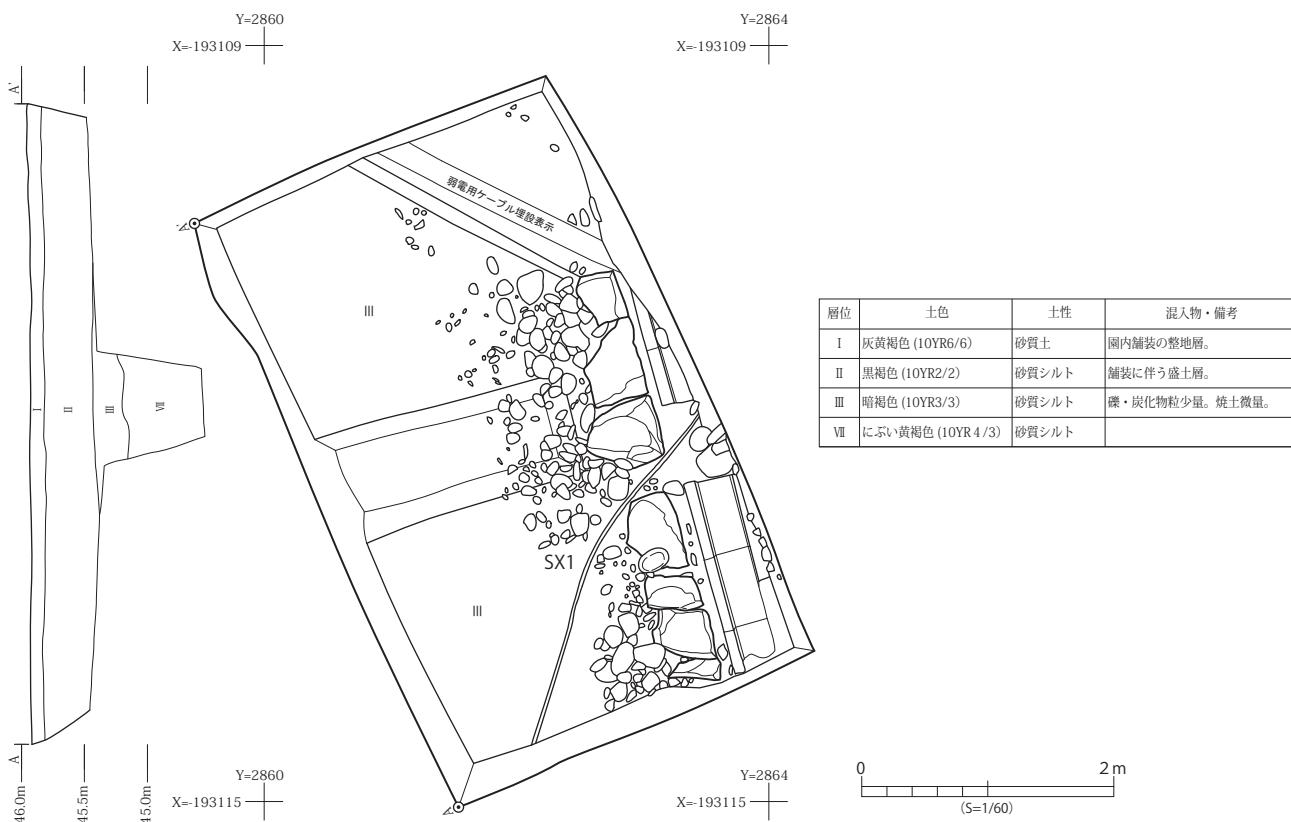
P1 平面形は円形を呈し、径 25cm、深さは 19cm である。堆積土は 1 層である。遺物は出土していない。

#### 39 トレンチ (第 14 図、図版 5- v ~ vii)

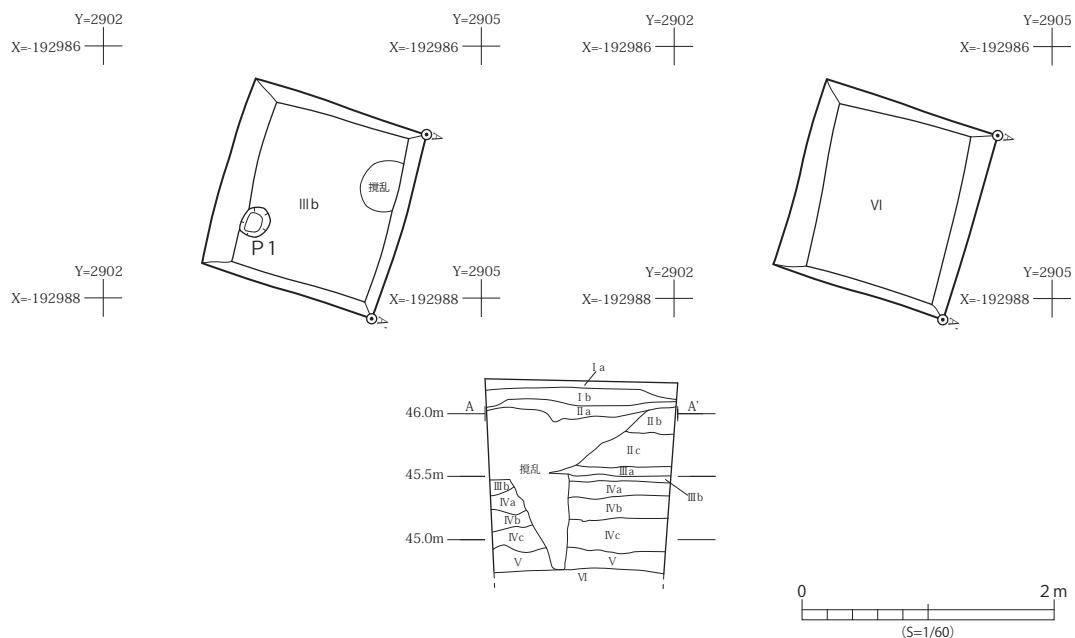
園内舗装計画に伴う調査で、調査面積は 15.0m<sup>2</sup> (3.0 × 5.0m) である。基本層は I ~ III、VII 層を確認した。表土下 30cm まで重機掘削を行ない、II b 層上面を確認し、トレンチ中央に帶状に敷き詰められた瓦集中範囲 (SX1) を検出した。工事掘削深度が 25cm であることから SX1 は遺構検出のみにとどめ、調査区南壁沿いにサブトレンチを掘削し、層序の確認を行なった。III 層上面までの深度は表土下 40cm である。基盤層を確認するため再び重機掘削



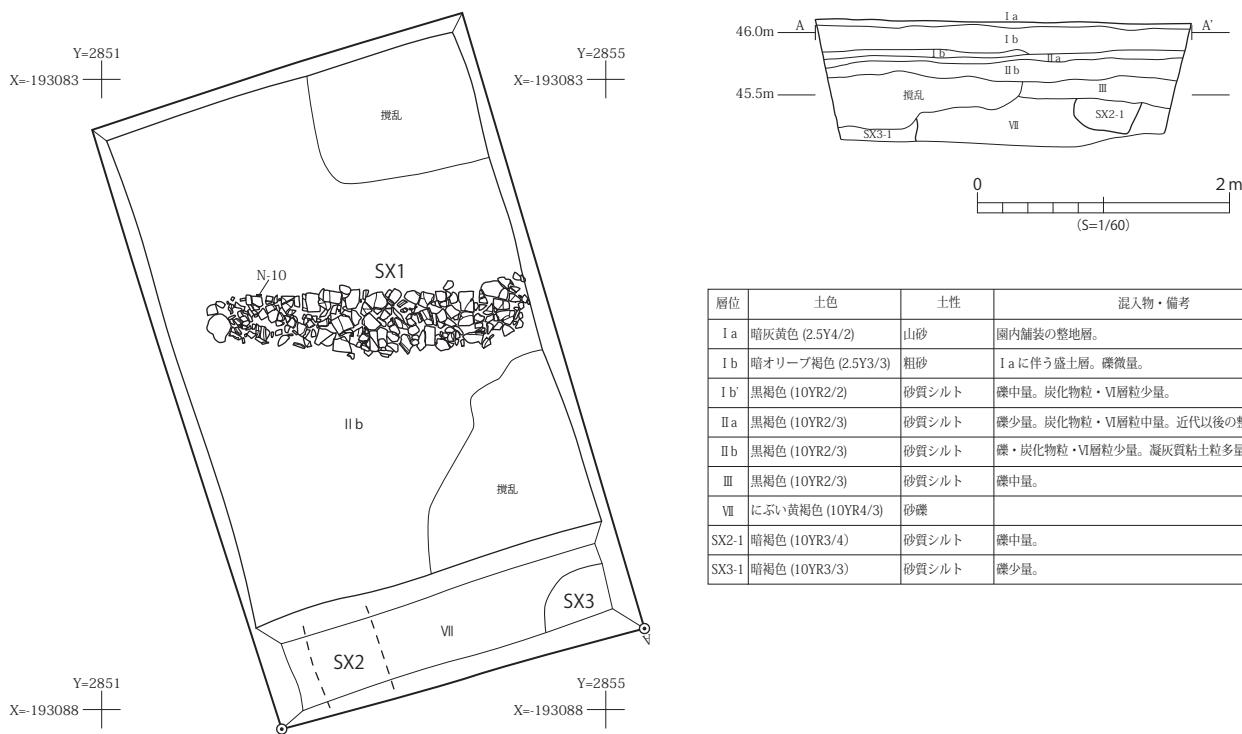
第 11 図 25 トレンチ平面図・断面図



第 12 図 26 トレンチ平面図・断面図



第13図 30トレンチ平面図・断面図



第14図 39トレンチ平面図・断面図

層位	土色	土性	混入物・備考
I a	暗灰黄色 (2.5Y4/2)	山砂	園内舗装の整地層。
I b	暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3)	粗砂	I aに伴う盛土層。礫微量。
I b'	黒褐色 (10YR2/2)	砂質シルト	礫中量。炭化物粒・VI層粒少量。
II a	黒褐色 (10YR2/3)	砂質シルト	礫少量。炭化物粒・VI層粒中量。近代以後の整地層。
II b	黒褐色 (10YR2/3)	砂質シルト	礫・炭化物粒・VI層粒少量。凝灰質粘土粒多量。
III	黒褐色 (10YR2/3)	砂質シルト	礫中量。
VII	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	砂礫	
SX2-1	暗褐色 (10YR3/4)	砂質シルト	礫中量。
SX3-1	暗褐色 (10YR3/3)	砂質シルト	礫少量。

を行なったところ断面観察によりⅦ層を掘り込むSX2、調査区南東隅部の搅乱直下からSX3を検出した。遺物は近世、近代の磁器、陶器、古銭が出土した。

SX1 平面形が長楕円形を呈し、規模は50cm×255cm以上で調査区外へ続く。破碎した瓦片を敷きつめた状態で検出した。溝状遺構とも考えられるが詳細は不明である。遺物は遺構上面から寛永通宝1点が出土している。

SX2 平面形はサブトレンチからの検出のため範囲が制約され不明である。規模は55cm以上×37cm以上で調査区外へ続く。遺物は出土していない。

SX3 平面形は断面観察による検出のため不明である。規模は50cm×65cm以上で、深さは27cm、断面形が箱形を呈する。遺物は出土していない。

#### 50 トレント(第15図、図版5-viii、6-i)

照明灯設置計画に伴う調査で、調査面積は2.3m<sup>2</sup>(1.5×1.5m)である。基本層はI～III、VI層を確認した。III層上面までの深度は地表下54cmである。III層直下にVI層が堆積しており、東壁にかかる不整形のSX1と南東隅部にピット1を検出した。遺物は近代以後のガラス片が出土した。

SX1 平面形は不明である。規模は27cm以上×93cm以上で調査区外へ続く。深さは14cmである。遺物は出土していない。

P1 平面形は円形を呈するものとみられる。径40cm以上で、深さは30cmである。遺物は出土していない。

#### 54 トレント(第16図、図版6-iii、iv)

照明灯設置計画に伴う調査で、調査面積は2.3m<sup>2</sup>(1.5×1.5m)である。基本層はI～III、VII層を確認した。IIIa層上面までの深度は地表下60cmである。調査区南西隅部に礎石跡(SK1)1基を検出した。公園課と文化財課の立会い協議により、設置範囲を0.7m北東にずらすことで遺構を保護することとなり、遺構検出のみにとどめた。遺物は近世、近代の磁器、陶器、瓦、土師質土器が多く出土している(第28図)。

SK1 平面形は円形を呈するものとみられる。表土下30cmで幅40cmの礎石とみられる大型礎石が検出され、IIIa層上面まで掘り下げて精査したところ掘り方ラインと15cm大の根石を検出した。

#### 55 トレント(第17図)

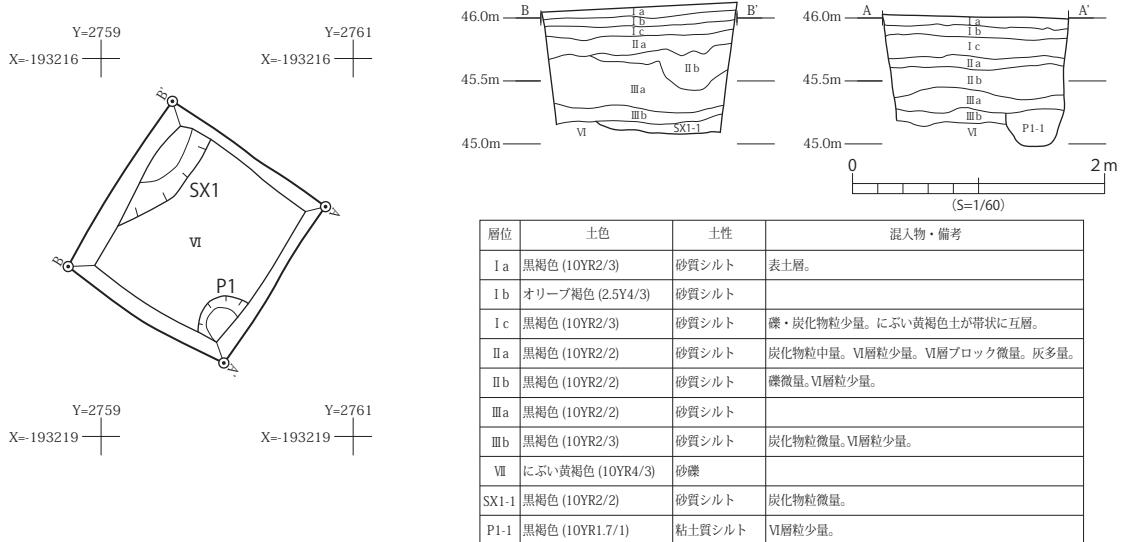
照明灯設置計画に伴う調査で、調査面積は2.3m<sup>2</sup>(1.5×1.5m)である。基本層はI～III、VII層を確認した。搅乱を除去した後にIIIa層上面を表土下103cmで確認した。断面観察により、調査区北東隅でIIIc層を切る形でピット1を検出した。遺物は近世、近代の磁器、陶器が出土している。

P1 平面形は円形を呈する。26cm×25cm以上で調査区外へ続く。深さは25cmである。堆積土は1層である。遺物は出土していない。

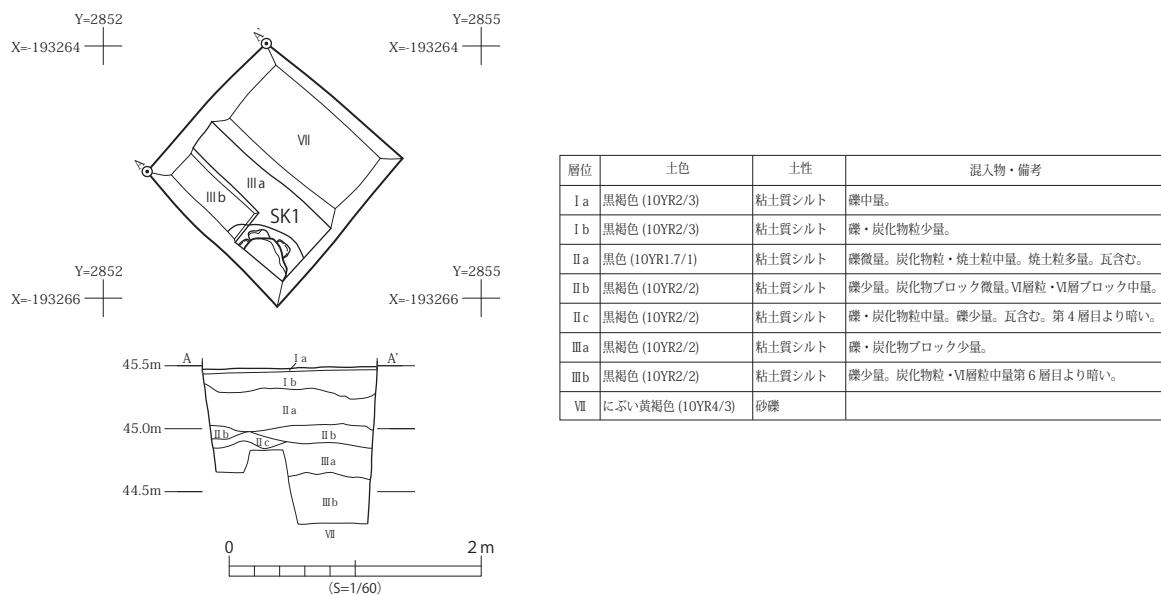
#### 56 トレント(第18図、図版6-v、vi)

照明灯設置計画に伴う調査で、調査面積は3.0m<sup>2</sup>(1.5×2.0m)である。基本層はI～III、VII層を確認した。III層上面までの深度は表土下60cmである。表土下25cmで調査区西壁から近代以後とみられる石列(SX1)を検出した。公園課と文化財課との協議により、照明灯設置範囲を0.8m東にずらすことで遺構を保護することとなり、遺構検出のみにとどめた。層序確認のため調査区東半部をサブトレントとして、重機掘削を行なった。遺物は近世の磁器が少量と近代の磁器、陶器が多く出土した。

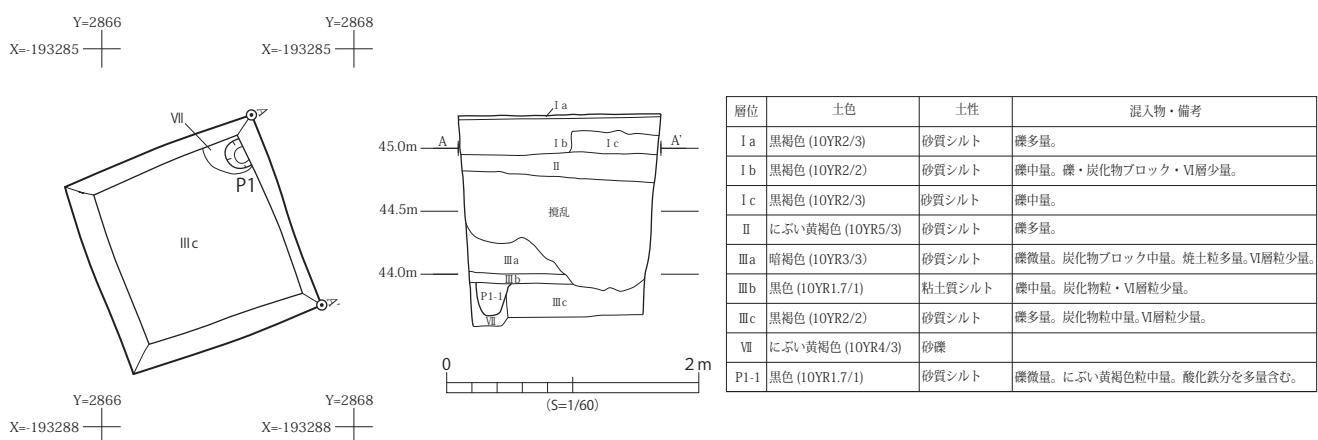
SX1 延長1.3m分を検出した。調査区外の西側で面を揃えているとみられ、4の石材が配置されている。石材は幅15～20cm以上、長さ20～40cm以上の長方形に加工されたもので、南北方向に調査区外へと続く。掘り方ラインをII層上面で検出した。遺物は出土していない。



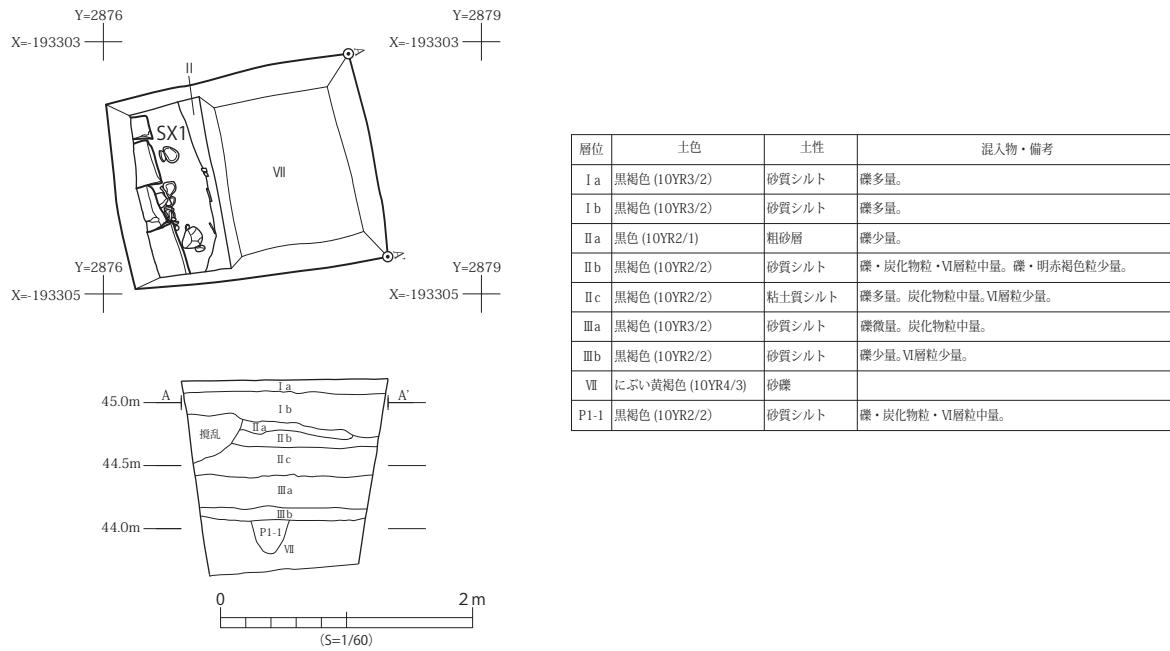
第 15 図 50 トレンチ平面図・断面図



第 16 図 54 トレンチ平面図・断面図



第 17 図 55 トレンチ平面図・断面図



第18図 56 トレンチ平面図・断面図

P1 平面形は断面観察による検出のため不明である。規模は径30cmで深さは25cmである。断面形はやや開いたU字状で、堆積土は1層である。VII層上面から掘り込まれている。遺物は出土していない。

#### 57 トレンチ(第19図、図版6-vii、viii、7-i)

雨水溝設置計画に伴う調査で、調査面積は $6.2\text{m}^2$ ( $1.2 \times 4.0\text{ m} + 0.7 \times 2.0\text{ m}$ )である。基本層はI～III、VI、VII層を確認した。IIIa層上面までの深度は表土下55cmである。表土下30cmまで重機掘削を行ない、近代の整地層とみられるIIa層上面から土坑2基を検出した。遺物は近世、近代の磁器、陶器、近代の瓦、ガラス片が出土した(第29図)。

SK1 調査区北東隅で検出した。平面形は円形を呈する。規模は $55\text{cm} \times 35\text{cm}$ 以上で、深さは30cmである。断面形は箱形で、底面は平坦である。堆積土は2層に分かれる。上層に瓦片を多量含み、下層は礫を中量含む。遺物は下層から磁器が2点出土している。

SK2 調査区南端で検出した。平面形は円形を呈する。規模は $60\text{cm} \times 40\text{cm}$ 以上で調査区外へ続く。深さは32cmである。断面形は箱形で、底面は平坦である。堆積土は1層である。礫を多量含み、底面に礎石とみられる径25cm大の礫が確認された。遺物は出土していない。

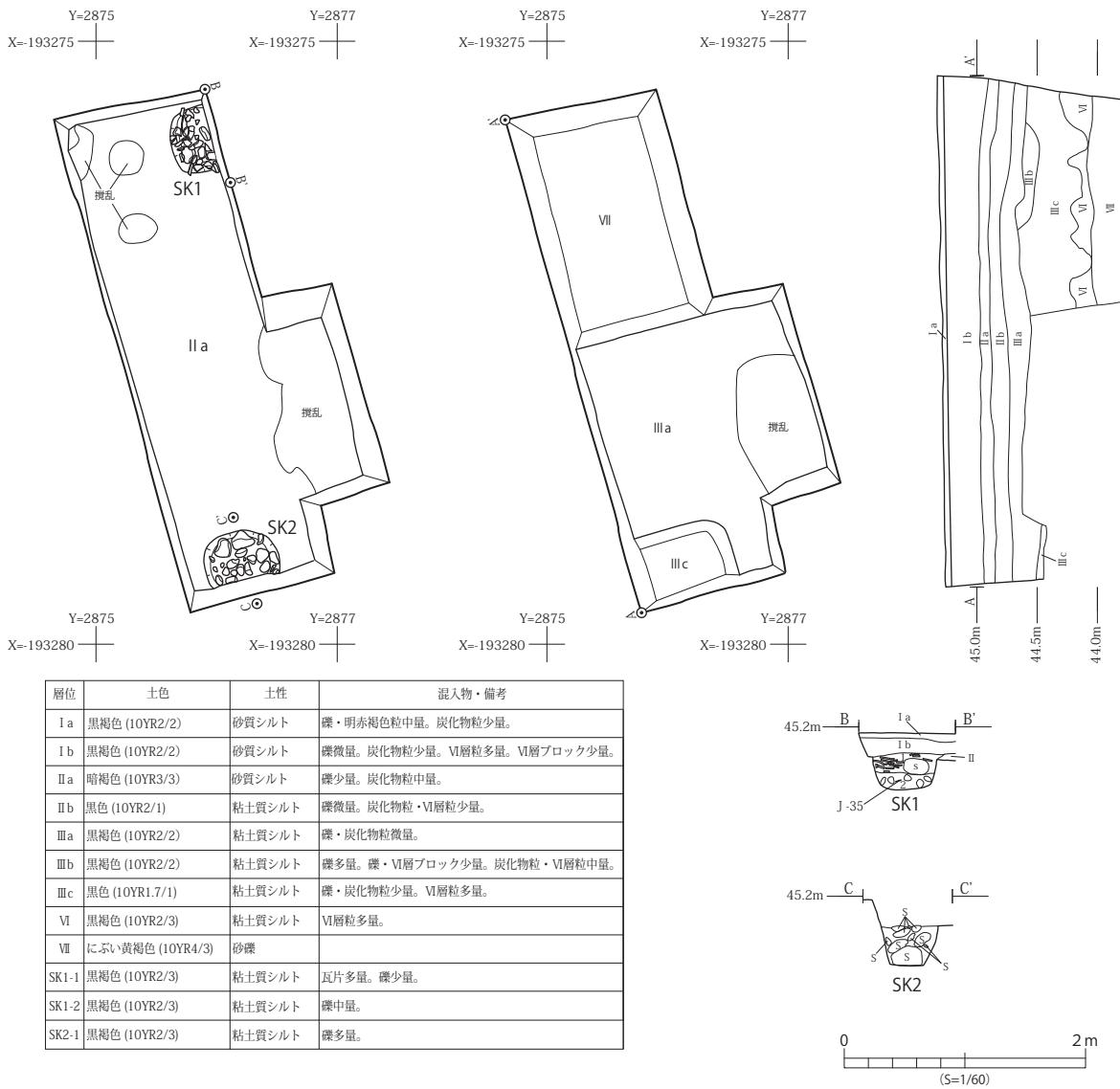
#### 58 トレンチ(第20図、図版7-ii、iii)

雨水溝設置計画に伴う調査で、調査面積は $5.0\text{m}^2$ ( $1.25 \times 4.0\text{ m}$ )である。基本層はI～V層を確認した。III層上面までの深度は表土下72cmである。V層上面で調査区中央に硬化した円形範囲を検出した(SX1)。遺物は近世、近代の磁器、陶器、近代の瓦が出土した。

SX1 調査区中央で検出した。断面観察によりIII層上面からの掘り込みが認められ、調査区外に続くことを確認した。III層での平面形は不明である。規模は $253\text{cm} \times 100\text{cm}$ 以上で調査区外へと続く。深さは50cmである。堆積土は2層に分かれる。締まりは2層とも極めて強い。遺物は出土していない。

#### 69 トレンチ(第21図、図版7-v～viii、8-i)

照明灯とハンドホール設置計画に伴う調査で、調査面積は $4.5\text{m}^2$ ( $1.5 \times 3.0\text{ m}$ )である。基本層はI、II、IV、V層を確認した。IIb層上面で溝状遺構1基と土坑1基を検出した。公園課と文化財課との協議の結果、2つの



第 19 図 57 トレンチ平面図・断面図

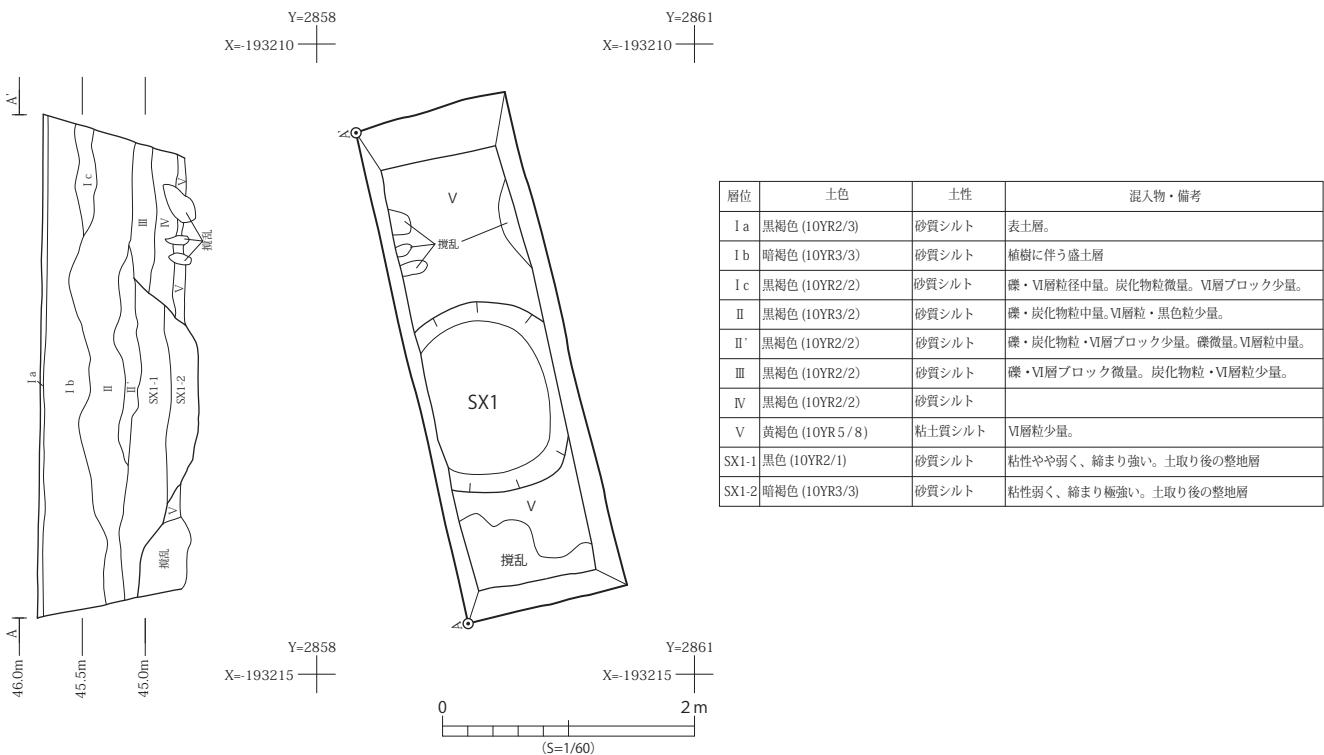
設置計画に伴うため調査区をずらすことが困難であったため、保護は不可能と判断され、遺構掘削を行なった。遺物は近世、近代の磁器が少量と、近代の瓦が出土した。

SK1 調査区北東隅で検出した。平面形は円形を呈するとみられ、規模は 50cm × 28cm 以上で調査区外へ続く。深さは 20cm で、断面形は逆台形を呈する。底面はほぼ平坦である。堆積層は 1 層で粗砂と礫を中量含む。SD1 とほぼ同じ堆積土を持つ。遺物は出土していない。

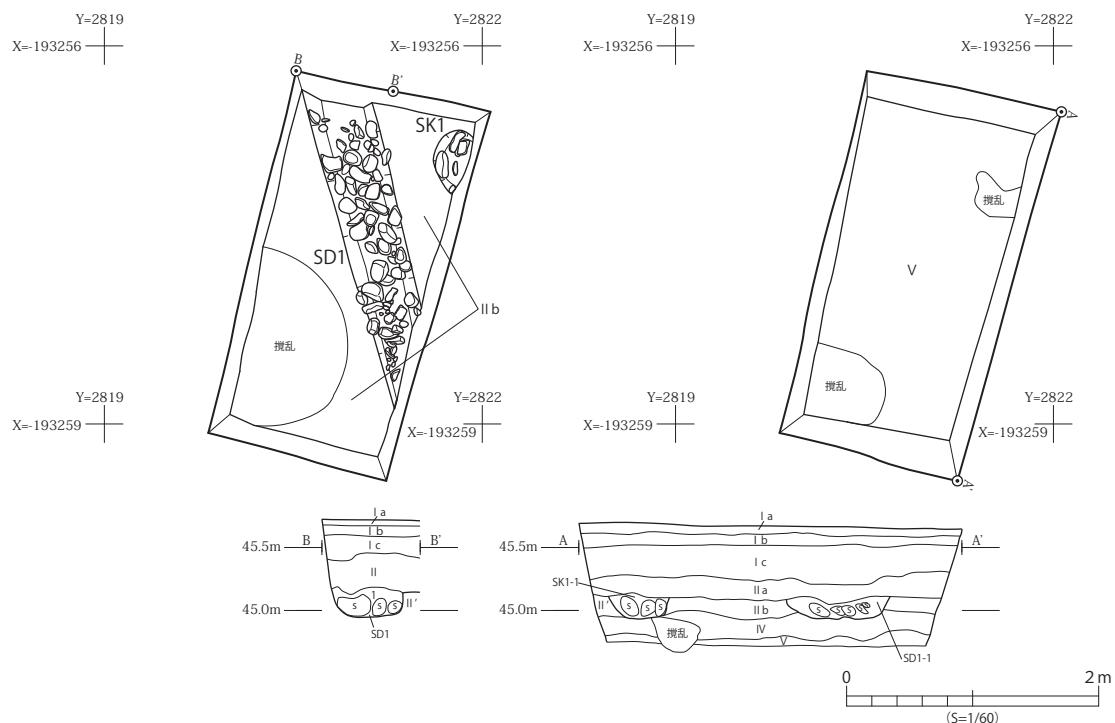
SD1 調査区北西隅から南東方向に伸びる溝跡で、上端幅約 50cm、下端幅 25 ~ 33cm、深さ 15 ~ 20cm である。断面形は逆台形で、底面は凹凸がみられるものの、ほぼ平坦で高低差は認められなかった。主軸方向は N - 14° - W である。堆積層は 1 層である。SK1 の堆積土と同様に、粗砂と礫を中量含む。遺物は出土していない。

### 73 トレンチ ( 第 22、23 図、図版 8- ii ~ viii、9- i ~ iii )

雨水溝設置計画に伴う調査で、調査面積は 25.2m<sup>2</sup> (2.4 × 10.5 m) である。基本層は I ~ III、VI、VII 層を確認した。III a 層上面までの深度は表土下 90cm である。表土下 40cm で II c 層上面を検出し、礎石跡と見られる礫集中範囲 3 基 (SK3 ~ 5) を検出した。その後、遺構掘削と併行して南北に拡張掘削を行ない、さらに 6 基の礎石跡 (SK 1、2、6 ~ 9) を確認した。公園課と文化財課により協議が行なわれ、雨水溝埋設範囲を 1 m 東側に移し、新たに掘削



第20図 58 トレンチ平面図・断面図



第21図 69 トレンチ平面図・断面図

範囲に包括される SK1、7、9 を調査することとなった。遺構掘削の結果、幅 60cm 以上の大型礫が 2 段以上据えられていることが確認され、完掘作業を行なった際に現況の照明灯埋設ケーブルを破損する危険性が生じるため、断面確認のみにとどめた。SK1・2、SK6・7、SK8・9 はそれぞれ幅 50～55cm、深さ 25～30cm の断面箱形で、砂礫を充填した布堀状の溝により連結されていた。SK 間の距離は 1.8 m (1 間) で主軸方向は N - 100°～103° - W である。工法から近代の建物基礎とみられる。遺物は近世の磁器、陶器、金属製品が少量と近代の瓦、ガラス片が出土した。

SK1 調査区北東隅部で検出した。平面形は隅丸方形で、規模は 75cm × 60cm 以上で調査区外へ続く。深さ 52cm で断面形は箱形を呈する。底面は平坦である。堆積土は 1 層である。幅 65～70cm、高さ 32～35cm の大型礫を間詰石と砂質シルトをはさんで 2 段に重ねていることが確認された。砂礫を充填した布掘り状の溝で SK1 と連結する。遺物は出土していない。

SK2 調査区北西隅部で検出した。平面形は隅丸方形で、規模は 100cm 以上 × 50cm 以上で調査区外へ続く。砂礫を充填した布掘り状の溝で SK1 と連結する。遺物は出土していない。

SK3 調査区中央部で検出した。平面形は円形で、規模は 95cm × 85cm 以上で調査区外へ続く。断面形は逆台形を呈し、底面には礎石とみられる幅 30cm の礫が据えられていた。底面には礎石の沈下により、凹凸が認められる。堆積土は 3 層に分けられる。遺物は底面から釘 1 点が出土している。

SK4 調査区中央部で検出した。平面形は円形で、規模は 76cm × 80cm 以上で調査区外へ続く。断面形は逆台形を呈し、底面には礎石とみられる幅 42cm の礫が据えられていた。底面は礎石の沈下により、やや凹凸が認められる。堆積土は 2 層に分けられる。遺物は出土していない。

SK5 調査区中央部で検出した。平面形は円形で、規模は 86cm × 70cm 以上で調査区外へ続く。断面形は箱形で、底面は平坦で、礎石は認められなかった。堆積土は 1 层である。遺物は出土していない。

SK6 調査区南側西壁沿いで検出した。平面形は隅丸方形で、規模は 110cm × 70cm 以上で調査区外へ続く。幅 60cm、高さ 15cm 以上の大型礫を礎石としている。砂礫を充填した布掘り状の溝で SK 7 と連結する。遺物は出土していない。

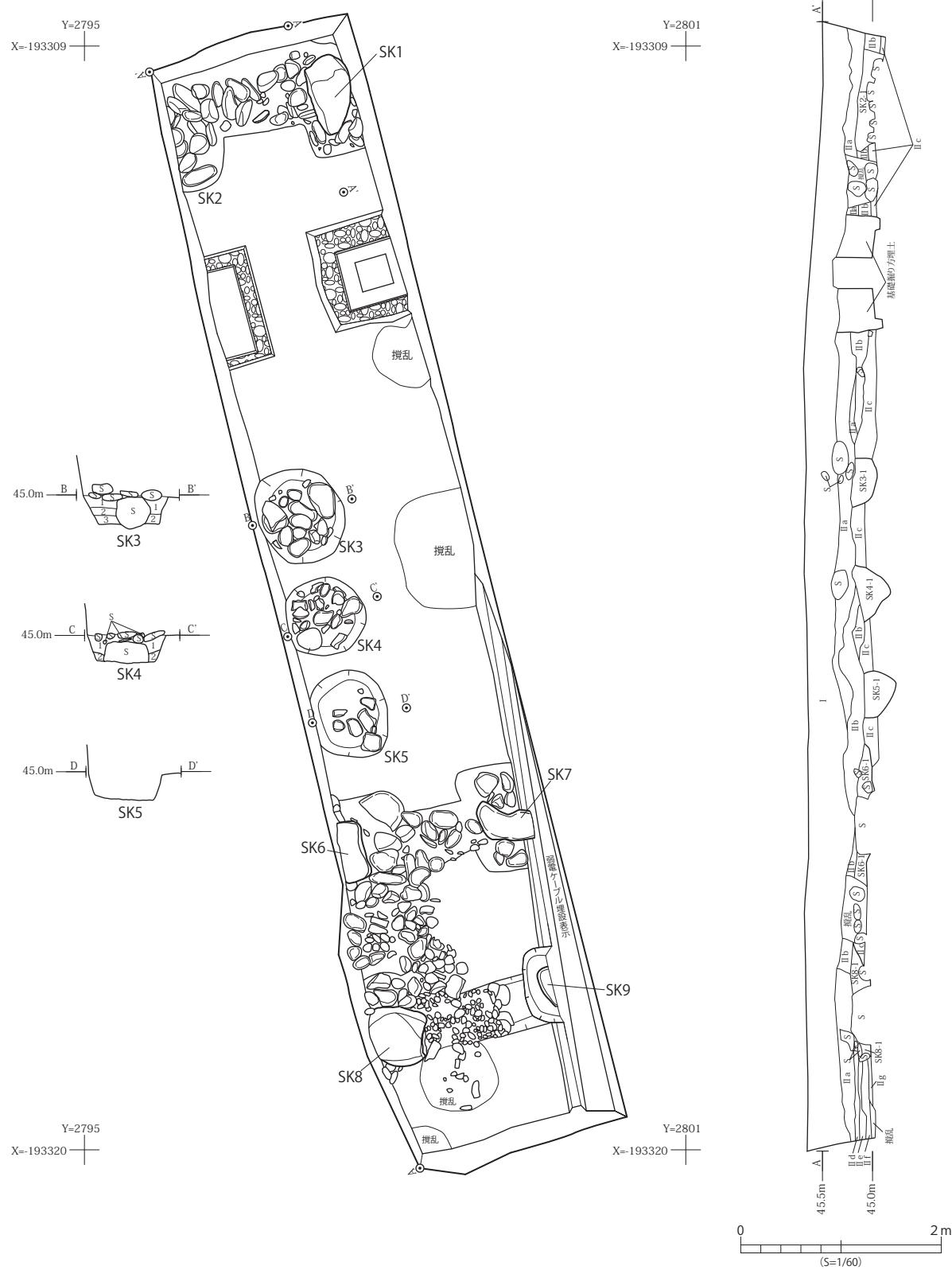
SK7 調査区南側東壁沿いで検出した。平面形は隅丸方形で、規模は 107cm × 55cm 以上で調査区外へ続く。深さ 75cm で断面形は箱形を呈し、底面は平坦である。SK1 と同様に幅 75cm、高さ 55cm の大型礫を底面に据え、間詰め石をはさんで 2 段目にも大型礫を重ねて礎石としている。堆積土は 1 层である。砂礫を充填した布掘り状の溝で SK 6 と連結する。弱電用ケーブル掘り方によって上部が削平されているが、連結する SK6 の礎石標高から推して本来は 3 段積まれていたものとみられる。遺物は出土していない。

SK8 調査区南東部で検出した。平面形は隅丸方形で、規模は 96cm × 60cm 以上で調査区外へ続く。幅 60cm、高さ 20cm 以上の大型礫を礎石としている。砂礫を充填した布掘り状の溝で SK 9 と連結する。遺物は出土していない。

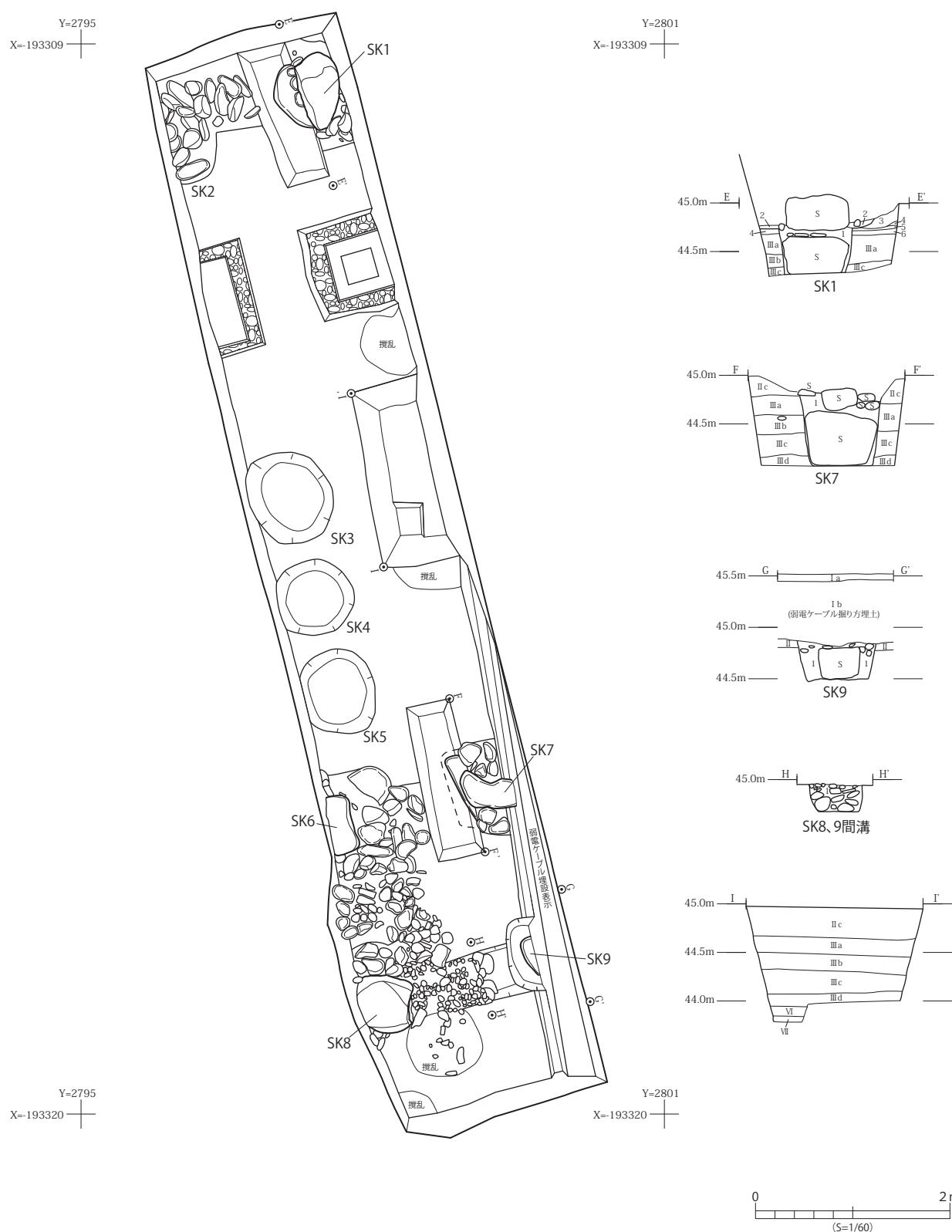
SK9 調査区南西部で検出した。平面形は隅丸方形で、規模は 80cm × 30cm 以上で調査区外へ続く。深さ 35cm で断面形は箱形を呈する。底面は平坦である。幅 42cm、高さ 32cm の大型礫を据えている。砂礫を充填した布掘り状の溝で SK 8 と連結する。弱電用ケーブル掘り方によって上部が削平されているが、連結する SK8 の礎石標高から推して本来は 3 段積まれていたものとみられる。遺物は出土していない。

#### 74 トレンチ (第 24 図、図版 9- iv、v)

雨水溝設置計画に伴う調査で、調査面積は 6.0m<sup>2</sup> (1.25 × 4.0 m) である。基本層は I～III、VI、VII 層を確認した。III a 層上面までの深度は表土下 58cm である。表土下 40cm まで重機掘削したところ、調査区北西隅から弱電用



第22図 73トレンチ平面図・断面図①



第23図 73トレンチ平面図・断面図②

層位	土色	土性	混入物・備考
I	黒褐色(10YR3/2)	砂質シルト	植樹範囲の盛土層。
II a	黒褐色(10YR2/2)	砂質シルト	礫中量。礫・炭化物ブロック・VI層少量。
II a'	黒褐色(10YR2/3)	砂質シルト	礫中量。
II b	灰黄褐色(10YR4/2)	砂質シルト	礫多量。
II b'	黒褐色(10YR2/2)	砂質シルト	礫微量。炭化物ブロック中量。焼土粒多量。VI層粒少量。
II c	黒褐色(10YR2/3)	粘土質シルト	礫中量。炭化物粒・VI層粒少量。
II d	黒褐色(10YR2/2)	砂質シルト	礫多量。炭化物粒中量。VI層粒少量。
II e	黒褐色(10YR2/2)	砂質シルト	礫・炭化物粒少量。VI層粒微量。酸化鉄分を多量含む。
II f	黒褐色(10YR2/2)	砂質シルト	炭化物粒少量。焼土ブロック・にぶい黄褐色粒微量。酸化鉄分を多量含む。
II g	黒褐色(10YR2/2)	砂質シルト	礫微量。にぶい黄褐色粒中量。酸化鉄分を多量含む。
III a	黒色(10YR1.7/1)	砂質シルト	炭化物粒少量。にぶい黄褐色粒中量。酸化鉄分を多量含む。
III b	にぶい黄褐色(10YR4/3)	砂質シルト	酸化鉄分を中量含む。
III c	黒褐色(10YR2/2)	砂質シルト	礫多量。炭化物粒中量。VI層粒少量。
III d	暗褐色(10YR3/3)	砂質シルト	礫微量。VI層粒・VI層ブロック少量。
VI	黄褐色(10YR5/6)	粘土質シルト	
VII	浅黃橙色(10YR8/4)	砂礫	
SK1-1	黒褐色(10YR2/3)	砂質シルト	礫中量。炭化物粒中量。VI層粒少量。
SK1-2	黒褐色(10YR2/2)	砂質シルト	

層位	土色	土性	混入物・備考
SK1-3	明黄褐色(10YR6/6)	粘土質シルト	
SK1-4	黒褐色(10YR2/2)	砂質シルト	礫中量。明赤褐色ブロック少量。
SK1-5	黒褐色(10YR2/3)	砂質シルト	礫中量。II層に類する整地層。
SK1-6	にぶい黄褐色(10YR5/3)	砂質シルト	礫多量。II層に類する整地層。
SK2-1	暗褐色(10YR3/3)	砂質シルト	礫微量。炭化物ブロック中量。焼土粒多量。VI層粒少量。
SK3-1	黒色(10YR1.7/1)	粘土質シルト	礫中量。炭化物粒・VI層粒少量。
SK3-2	黒褐色(10YR2/2)	砂質シルト	礫多量。炭化物粒中量。VI層粒少量。
SK3-3	黒色(10YR1.7/1)	砂質シルト	礫・炭化物粒少量。VI層粒微量。酸化鉄分を多量含む。
SK4-1	黒色(10YR1.7/1)	砂質シルト	炭化物粒少量。焼土ブロック・にぶい黄褐色粒微量。酸化鉄分を多量含む。
SK4-2	黒色(10YR1.7/1)	砂質シルト	礫微量。にぶい黄褐色粒中量。酸化鉄分を多量含む。
SK4-3	黒色(10YR1.7/1)	粘土質シルト	炭化物粒少量。にぶい黄褐色粒中量。酸化鉄分を多量含む。
SK5-1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	砂質シルト	酸化鉄分を中量。
SK6-1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	砂礫	礫石掘り方理土
SK7-1	黒褐色(10YR2/3)	粘土質シルト	礫中量。炭化物粒中量。VI層粒微量。
SK8-1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	砂礫	礫石掘り方理土
SK9-1	黄褐色(10YR5/6)	砂質土	礫中量。
SK8・9間	にぶい黄褐色(10YR5/4)	砂質土	層上部に小礫、下半部に大礫中量。

ケーブル埋設表示が検出されたため、調査区北壁から 0.65 m 南から重機掘削を行なった。表土下 140cm で確認された VI 層上面から性格不明遺構 2 基を検出した。工事掘削深度を超えており、遺構検出のみにとどめた。遺物は I 、 II 層から近代の磁器、瓦片、ガラス片が出土し、 III 層から近世の磁器、土師質土器が出土した(第 30 図)。

SX1 調査区中央で検出した。平面形は不明である。規模は 140cm 以上 × 60cm 以上で調査区外へ続く。SX2 を切る。遺物は出土していない。

SX2 調査区中央で検出した。平面形は不明である。規模は 157cm 以上 × 60cm 以上で調査区外へ続く。SX1 に切られる。遺物は出土していない。

#### 75 トレンチ(第 25 図、図版 10- i 、 ii )

雨水溝設置計画に伴う調査で、調査面積は 6.0m<sup>2</sup>(1.25 × 4.0 m) である。基本層は I ~ IV 、 VII 層を確認した。 III a 層上面までの深度は表土下 65cm である。断面観察により IV 層上面からピット 1 、 VII 層上面でピット 2 、 3 を検出した。遺物は近世、近代の磁器、近代の瓦が少量出土した。

P1 調査区南東隅で検出した。平面形は円形を呈する。規模は 47cm × 32cm 、深さは 56cm である。断面形は U 字形で底面は丸底である。堆積土は 2 層に分かれ。遺物は出土していない。

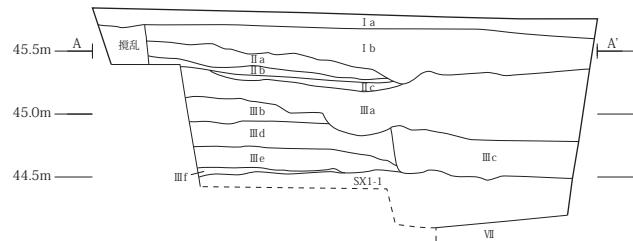
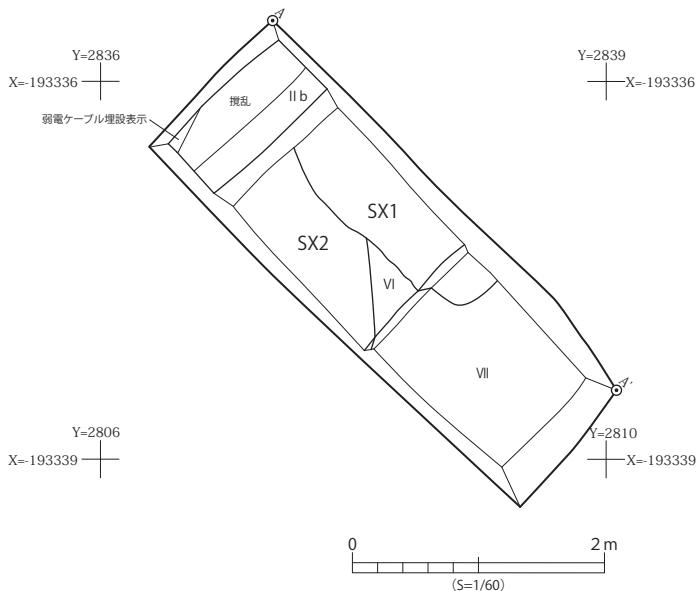
P2 調査区中央で検出した。平面形は円形である。規模は 55cm × 48cm で、深さは 12cm である。断面形は皿形で底面はほぼ平坦である。堆積土は 1 層である。遺物は出土していない。

P3 調査区中央で検出した。平面形は円形である。規模は 40cm × 40 cm で、深さは 14cm である。断面形は碗形で底面は丸底である。堆積土は 1 層である。遺物は出土していない。

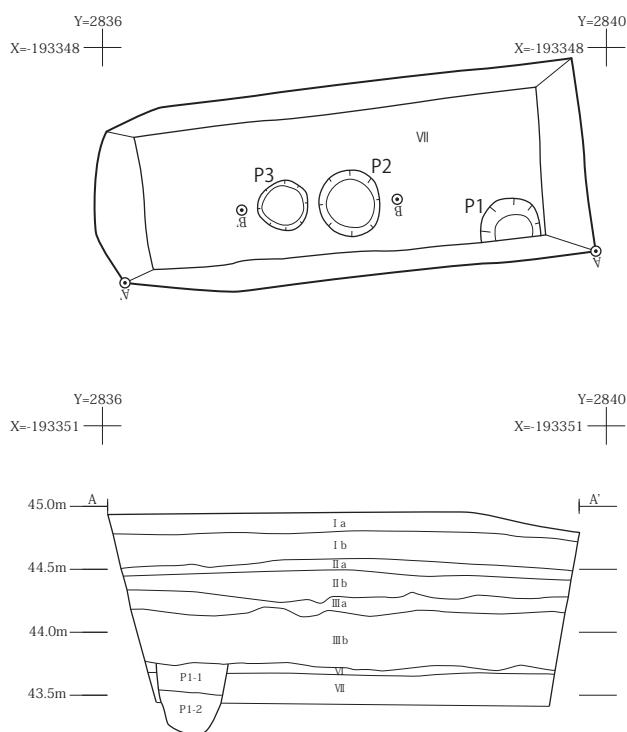
#### 80 トレンチ(第 26 図、図版 10- iii ~ vi )

雨水溝設置計画に伴う調査で、調査面積は 6.3m<sup>2</sup>(1.5 × 4.2 m) である。 III a 層上面までの深度は表土下 85cm である。表土下 130cm で近世の整地面とみられる III a ~ III d 層上面を確認した。調査区南端の III d 層上面で上層に礫が集中する土坑 1 基を検出した。工事掘削深度まで掘削していたが、基盤層の確認のために遺構調査を行なった。遺構調査終了後、調査区北東隅にサブトレンチを設定して掘削を行ない、層序の確認を行なった。 I ~ III 、 VI 層を確認した。遺物は I 、 II 層から近世、近代の磁器、陶器、瓦が出土し、 III 層から近世の磁器、陶器、土師質土器、金属製品が出土した(第 30 、 31 図)。

SK1 調査区南端で検出した。平面形は円形である。規模は 70cm 以上 × 60cm 以上で調査区外へ続く。深さは 15 cm である。断面形は皿形で、底面は緩やかな丸底である。堆積土は 2 層に分けられる。上層には礫が集中しており、

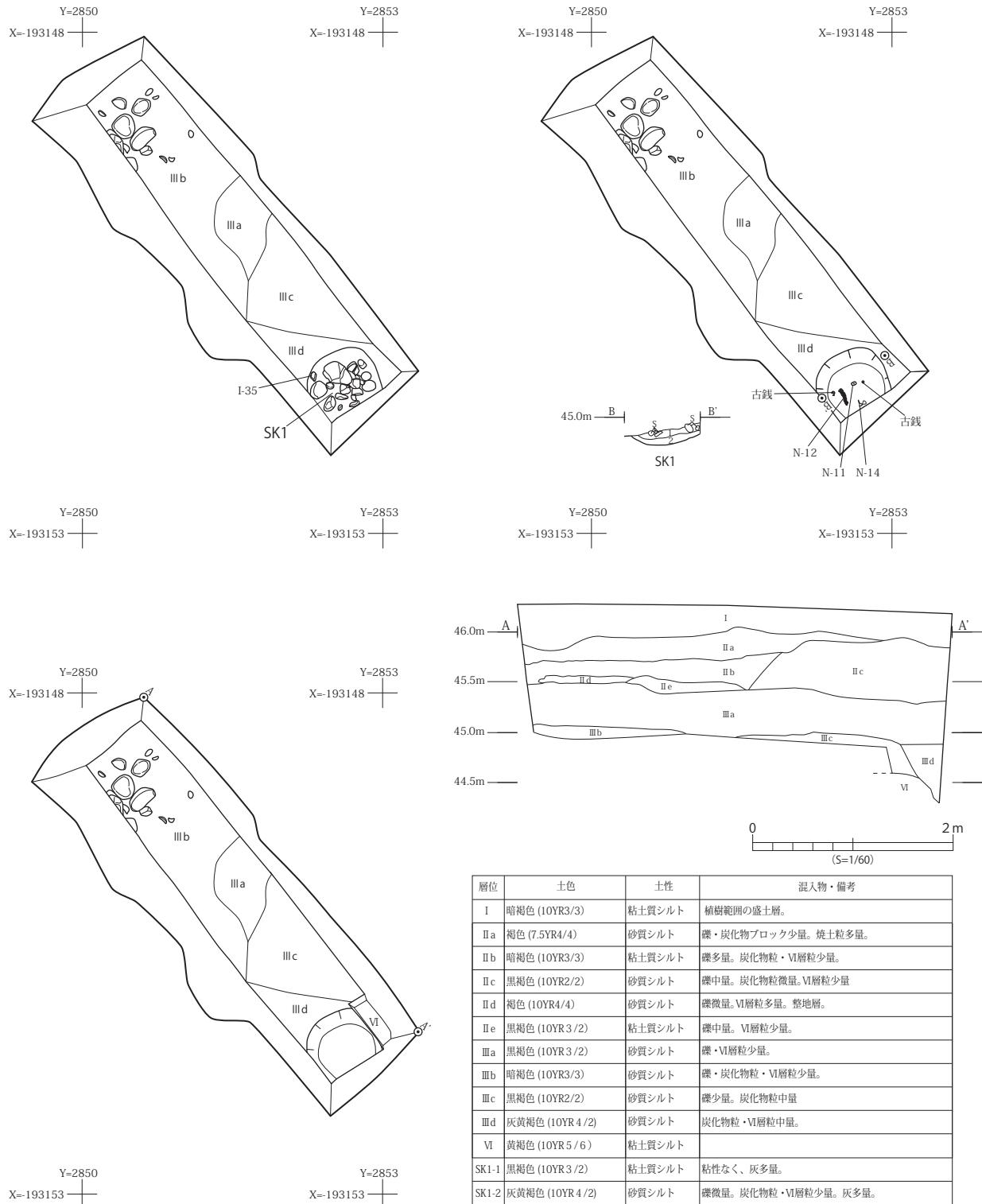


第24図 74トレンチ平面図・断面図



層位	土色	土性	混入物・備考
I a	黒褐色 (10YR2/3)	砂質シルト	磷中量。
I b	黒褐色 (10YR2/3)	砂質シルト	磷中量。炭化物ブロック少量。
II a	黒色 (10YR1.7/1)	砂質シルト	磷微量。炭化物粒中量。焼土粒多量。VI層粒少量。
II b	黒褐色 (10YR2/2)	砂質シルト	磷中量。炭化物粒・VI層粒少量。
III a	黒褐色 (10YR2/2)	砂質シルト	磷多量。炭化物粒中量。VI層粒少量。
III b	暗褐色 (10YR3/3)	砂質シルト	磷・炭化物粒少量。VI層粒微量。酸化鉄分を多量含む。
III c	黒褐色 (10YR3/2)	砂質シルト	炭化物粒少量。焼土ブロック・にぶい黄褐色粒微量。酸化鉄分を多量含む。
III d	黒褐色 (10YR2/2)	砂質シルト	磷微量。にぶい黄褐色粒中量。酸化鉄分を多量含む。
III e	黒褐色 (10YR2/2)	砂質シルト	磷中量。弱電ケーブル掘り方埋土
III f	灰黄褐色 (10YR4/2)	砂質シルト	酸化鉄分を中量含む。
VII	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	砂礫	
SX1-1	黒色 (10YR1.7/1)	粘土質シルト	炭化物粒少量。にぶい黄褐色粒中量。酸化鉄分を多量含む。

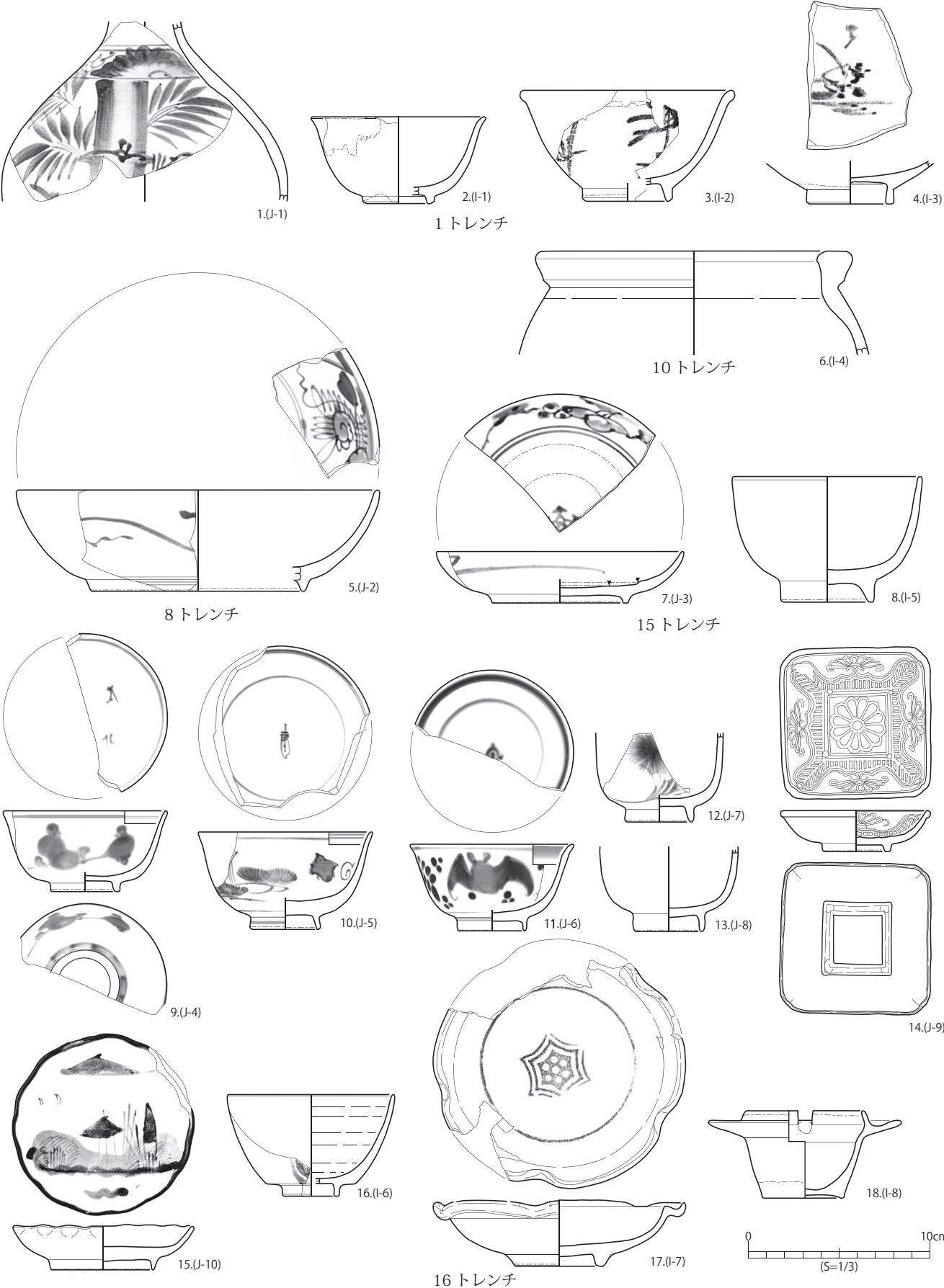
第25図 75トレンチ平面図・断面図



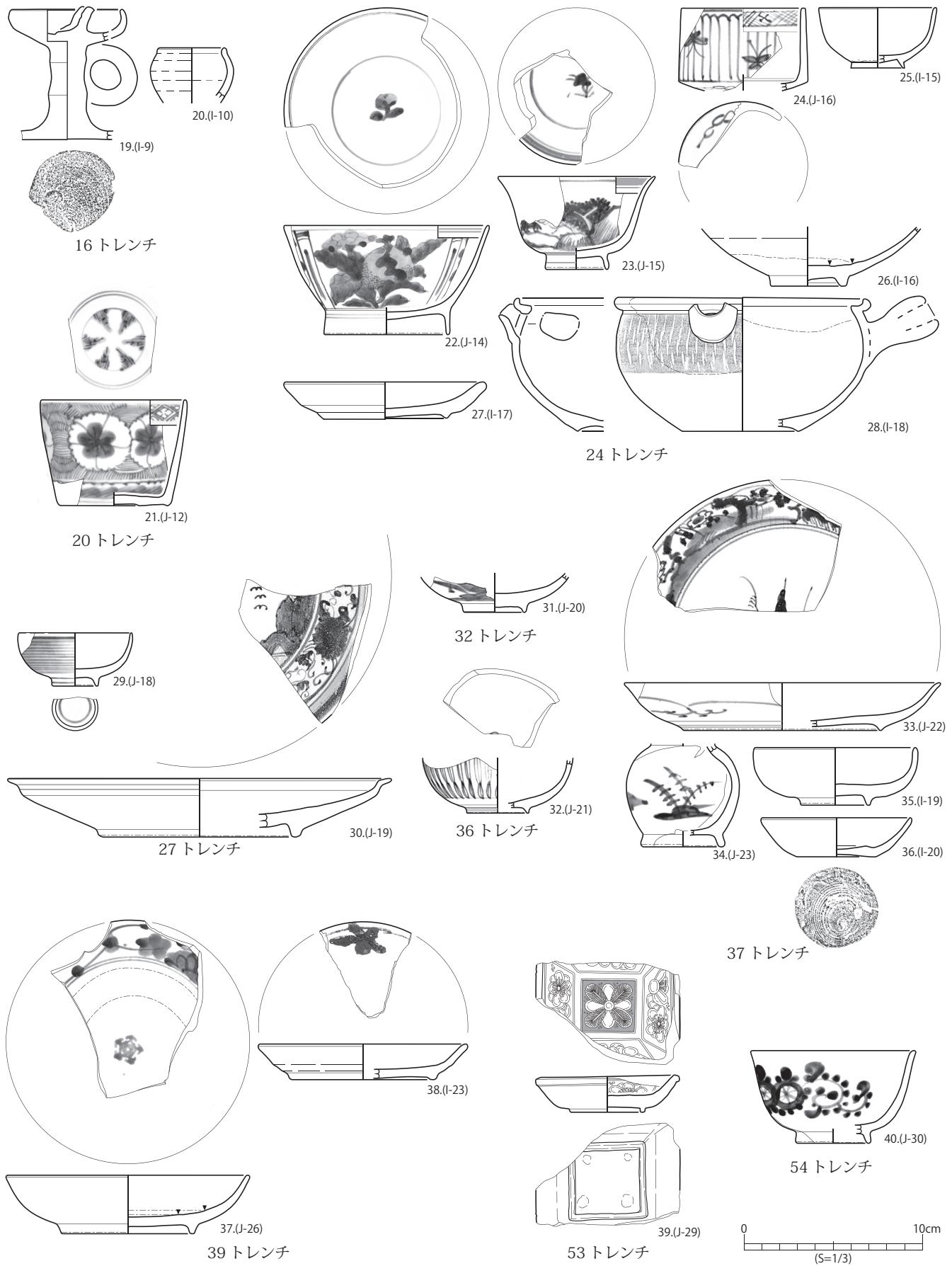
第26図 80トレンチ平面図・断面図

2層ともに灰を多量含む。遺物は礫集中部から陶器片1点、底面直上から古銭約53枚（天保通宝1点、寛永通宝2点、鉄銭を含む約50点の縁銭）、釘1点が出土している。

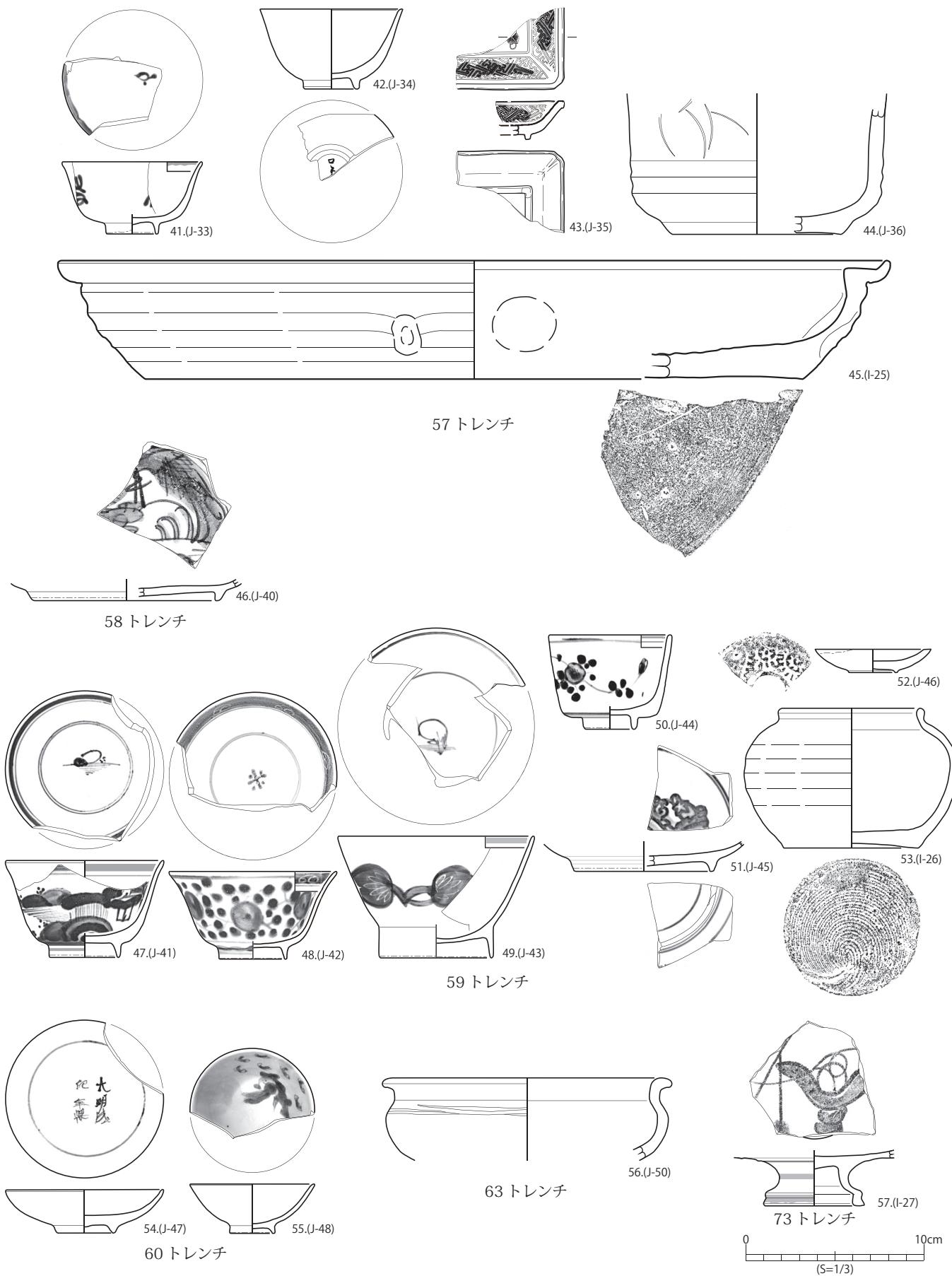




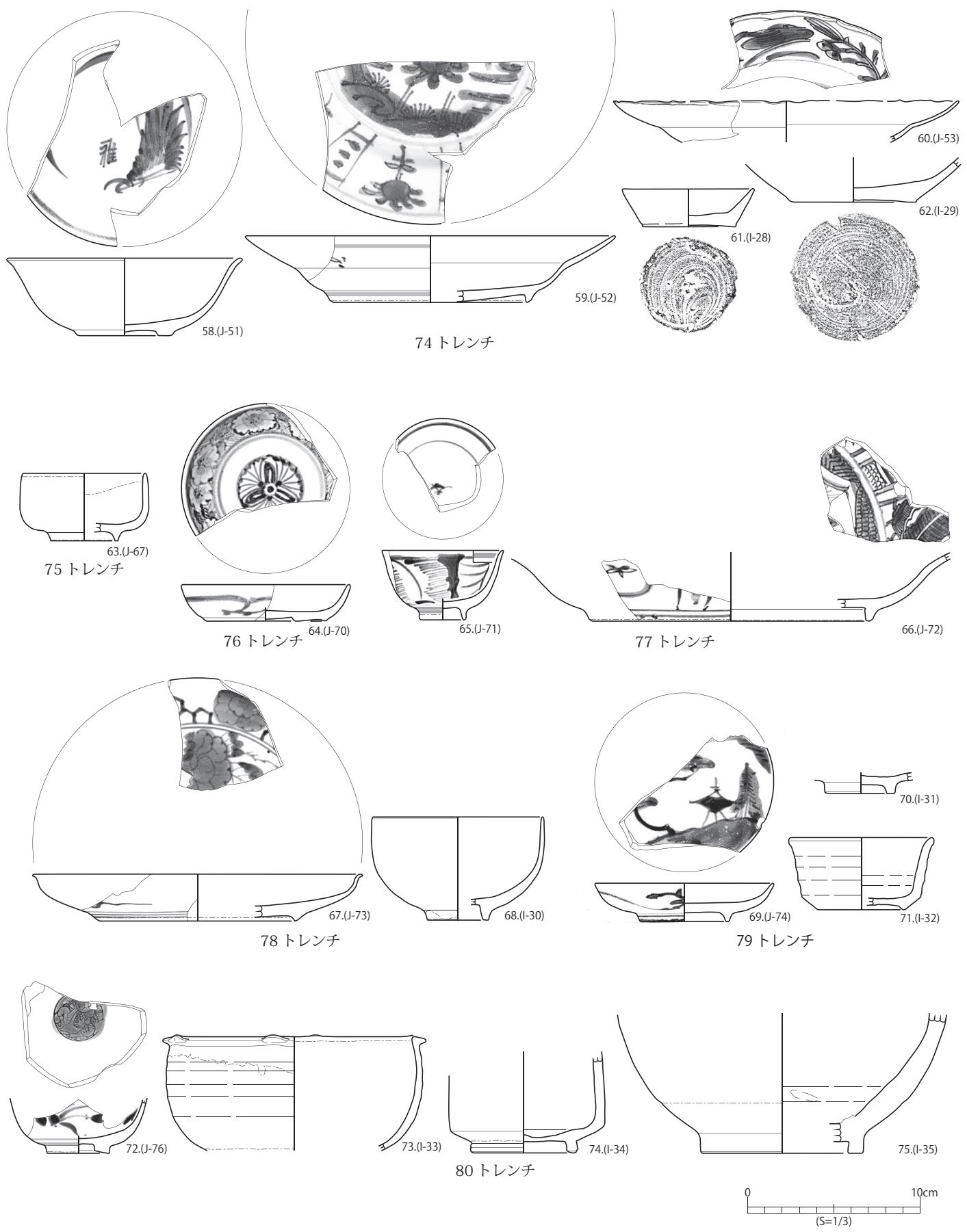
第27図 出土陶磁器実測図（1）



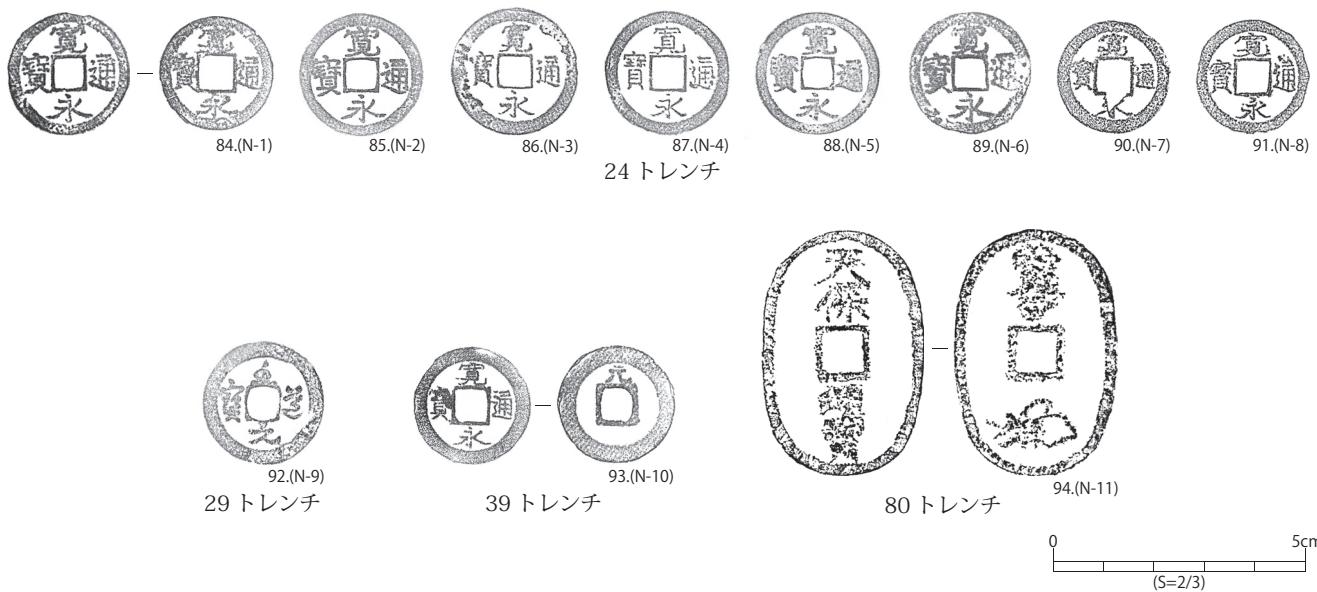
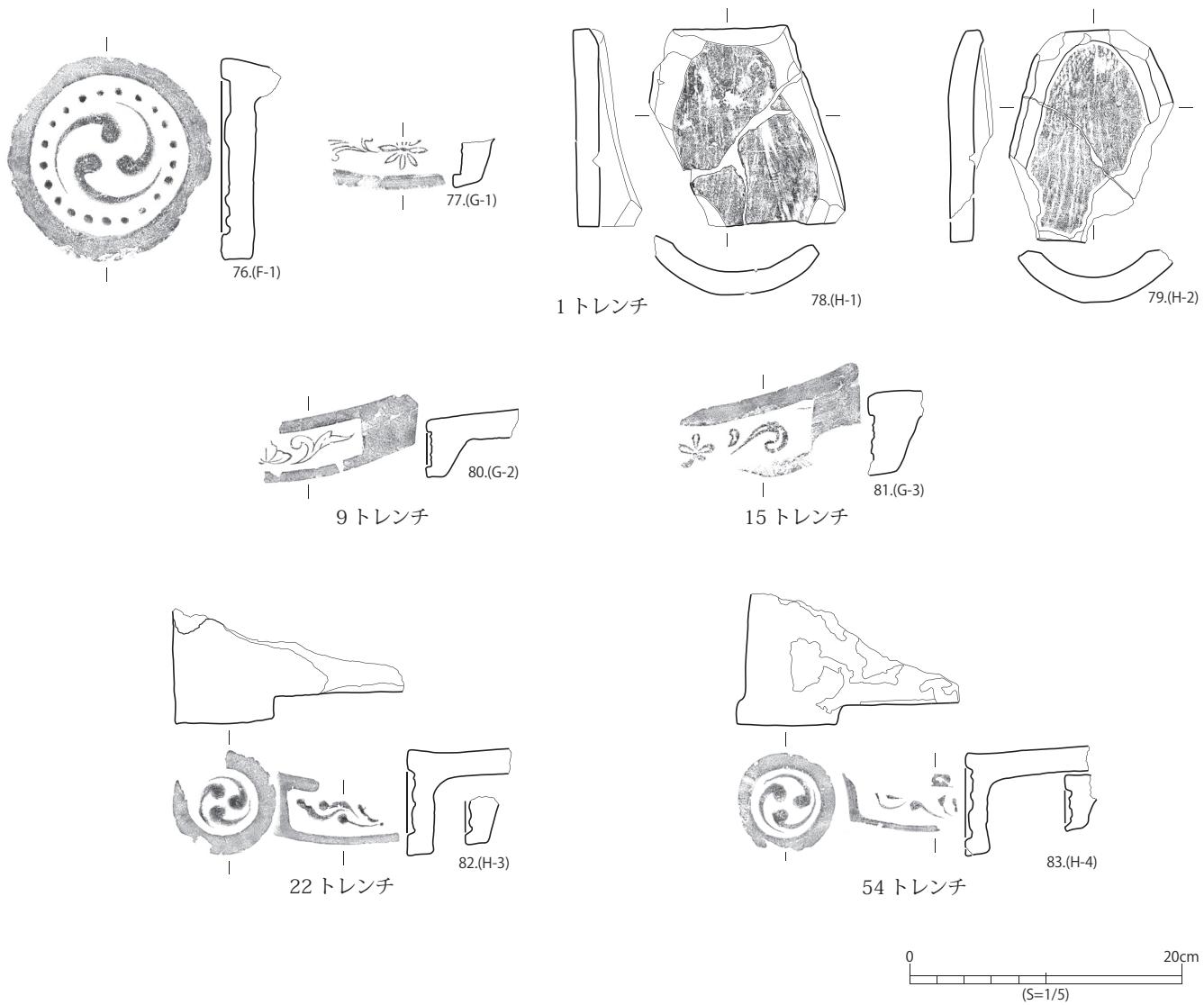
第28図 出土陶磁器実測図（2）



第29図 出土陶磁器実測図（3）



第30図 出土陶磁器実測図（4）



第31図 出土瓦実測図・出土錢貨拓影図

第2表 陶磁器觀察表 (1)

法量欄: 単位cm。&lt;&gt;内は復元値, ()内は残存値

図中番号	登録番号	種別	器種	トレンチ番号	遺構名・出土位置	法量(cm)	成形・釉・文様等	胎土色・胎質	生産地	年代	備考	写真図版
27-1	J-1	磁器	瓶	1	SX1 1層目	口径: - 底径: - 器高: (9.9)	成形:ロクロ／文様:染付。外面肩部半菊文,体部笛文	灰白色 粉質	肥前	19世紀前半		11-1
27-2	I-1	陶器	碗	1	I 層	口径: (9.6) 底径: (3.1) 器高: 4.8	成形:ロクロ,削り出し高台,端反形／釉:内面～外面体部糖白釉の上から外面 口縁部鉄軸(暗褐色)流し掛け	灰白色 やや粗い	大堀相馬	19世紀前半		11-2
27-3	I-2	陶器	碗	1	SX1 1層目	口径: <11.4> 底径: (4.6) 器高: 6.1	成形:ロクロ,削り出し高台,端反形／釉:内面～外面口縁部糖白釉,外面灰釉 (透明)／文様:鐵で外面体部に草文	褐灰色 粗砂 粗い	唐津	19世紀前半		11-3
27-4	I-3	陶器	碗	1	I 层	口径: - 底径: 45 器高: (2.2)	成形:ロクロ,削り出し高台,平碗／釉:内面～外面体部灰釉(黃灰色)／文様:鐵 で見込に樓閣文	黃灰色 緻密	唐津	18世紀前半	「京焼風陶器」	11-4
27-5	J-2	磁器	皿	8	I 層	口径: <20.0> 底径: <11.7> 器高: 5.6	成形:ロクロ,削り出し高台／文様:染付。内面体部花文,外面体部唐草文	灰白色 粉質	肥前	18世紀後半	「くらわんか手」	11-5
27-6	I-4	土師質土器	手あぶり	10	I 層	口径: <17.0> 底径: - 器高: (4.7)	成形:ロクロ,口縁部肥厚,内外面横ナデ	橙色 粗砂 粗い	在地	19世紀前半	口唇部内面側敲打痕, 内面焼ける	11-6
27-7	J-3	磁器	皿	15	搅乱	口径: <13.6> 底径: (7.4) 器高: 2.9	成形:ロクロ,削り出し高台／釉:見込蛇の目釉剥ぎ／文様:染付。見込五弁花 (コニニヤク判),内面体部葡萄文,外面体部松葉文	灰白色 粉質	肥前	18世紀	「くらわんか手」	11-7
27-8	I-5	陶器	碗	15	搅乱	口径: <10.5> 底径: 5.0 器高: 6.9	成形:ロクロ,削り出し高台／釉:全面灰釉(黃灰色,貫入る)	灰白色 やや粗い	唐津	17世紀後半	「呉器手」	11-8
27-9	J-4	磁器	碗	16	IIIa層	口径: <9.0> 底径: (3.8) 器高: 4.4	成形:ロクロ,削り出し幅広高台,端反形／文様:染付。見込「太化(年製)」か,外 面体部折枝草花文(花には押型使用),高台際「E」の字連続文	白色 ガラス質	瀬戸美濃	1830～ 60年代		11-9
27-10	J-5	磁器	碗	16	IIIa層	口径: <9.6> 底径: 3.8 器高: 5.4	成形:ロクロ,削り出し高台,端反形／文様:染付。見込1重圓線内に「寿」の字 文,外面体部松と千鳥文	白色 粉質	肥前	19世紀前半		11-10
27-11	J-6	磁器	碗	16	IIIa層	口径: <9.0> 底径: (3.8) 器高: 4.8	成形:ロクロ,削り出し高台／文様:染付。見込1重圓線内に渦巻文,外面体部 花と編蝠文	白色 ガラス質	瀬戸美濃	1820～ 50年代	「端反碗」	11-11
27-12	J-7	磁器	碗	16	IIIa層	口径: - 底径: 3.6 器高: 4.9	成形:ロクロ,削り出し高台／文様:染付。外面体部草花文	白色 粉質	肥前	1820～ 50年代		11-12
27-13	J-8	磁器	碗	16	IIIa層	口径: - 底径: <3.8> 器高: (4.7)	成形:ロクロ,削り出し高台／文様:白磁	白色 ガラス質	瀬戸美濃	1820～ 40年代	「湯のみ碗」	11-13
27-14	J-9	磁器	皿	16	IIIa層	口径: 8.3 底径: 3.7 器高: 2.3	成形:型押,方形の角皿,高台部方形,外面体部布目あり／文様:白磁。見込菊 花文,内面体部半菊文(型押,陽刻)／窯詰:見込と四隅の疊付に目痕4個	灰白色 粉質	切込焼	1830～ 60年代		11-14
27-15	J-10	磁器	皿	16	IIIa層	口径: 10.0 底径: 5.6 器高: 2.5	成形:ロクロ,削り出し高台,体部花弁状に型打ち／文様:染付。内面山水楼閣 文,口説／焼成:不良で器面白濁	灰白色 粉質	肥前	19世紀前半		11-15
-	J-11	磁器	皿	16	IIIa層	口径: - 底径: - 器高: -	成形:タグラ成形,変形貼付高台,見込段あり／文様:染付。見込山水楼閣文か 花文	白色 粉質	肥前	1650～ 60年代	燒継ぎ	11-16
27-16	I-6	陶器	碗	16	IIIa層	口径: <9.2> 底径: (3.0) 器高: 5.6	成形:ロクロ,削り出し高台,杉なり形／釉:内面～外面高台部灰釉(灰白色)／文 様:鐵で外面体部に若松文(ワンボポイント)	灰白色 緻密	大堀相馬	18世紀後半		11-17
27-17	I-7	陶器	皿	16	IIIa層	口径: 13.9 底径: 4.8 器高: 3.7	成形:ロクロ,削り出し高台,鋸皿形の鋸の部分に押痕5箇所／釉:内面～高 台部外側灰釉(綠灰色,貫入る)／文様:見込六角形文(印押,陰刻)	灰白色 緻密	大堀相馬	18世紀代		11-18
27-18	I-8	陶器	灯明受皿	16	IIIa層	口径: 6.5 底径: 4.5 器高: 4.8	成形:容器付灯明受皿,ロクロ,受部の切込み形の「U」字形／釉:全面鉄軸(黒 色),受部の口唇部と体部下位以下無釉	灰色 緻密	大堀相馬	19世紀前半		11-19
28-19	I-9	陶器	秉燭	16	IIIa層	口径: <6.2> 底径: (4.5) 器高: 7.5	成形:ロクロ,把手と芯立部は粘土紐貼付,底部回転糸切痕(右)	黑色 やや粗い	堤焼	19世紀前半		11-20
28-20	I-10	陶器	豆甕	16	IIIa層	口径: <3.8> 底径: - 器高: <3.0>	成形:ロクロ,把手と芯立部は粘土紐貼付,底部回転糸切痕(左)	白色 緻密	大堀相馬	19世紀前半		11-21
-	I-11	陶器	皿	16	IIIa層	口径: - 底径: - 器高: -	成形:ロクロ,削り出し高台,底径小／文様:陶胎染付。見込文様あり	灰色 やや粗い	肥前	1650年代	被熱	11-22
28-21	J-12	磁器	猪口	20	搅乱	口径: <8.0> 底径: 6.1 器高: 5.9	成形:ロクロ,蛇の目凹型高台／文様:染付。見込2重圓線内に草文,内面口縁 部四方捺文,外面体部花文	白色 粉質	肥前	1770～ 1800年代		11-23
-	I-12	陶器	徳利	20	搅乱	口径: - 底径: - 器高: -	成形:ロクロ,口縁部外側に折返しで断面三角形／釉:全面灰釉(灰白色),底部 釉試取り／文字:鐵で外面に「東一番町・針生酒店・○に正」	灰白色 やや粗い	瀬戸美濃	1870～ 1920年代		11-24
-	I-13	鉛釉陶器	土鍋	20	搅乱	口径: - 底径: - 器高: -	成形:ロクロ,把手は粘土紐貼付,外面体部回転カソナ削り痕／釉:前面透明釉	橙色 粗い	堤焼	19世紀前葉 ～中葉	下半被熱(釉剥落)	11-25
-	I-14	鉛釉陶器	焙烙	20	搅乱	口径: - 底径: - 器高: -	成形:把手と体部は別成形で貼付,把手はロクロ成形で中空／釉:前面透明釉	橙色 粗い	堤焼	19世紀		11-26
-	J-13	磁器	皿	21	I ~ II 層	口径: - 底径: - 器高: -	成形:ロクロ,削り出し高台／釉:生掛け／文様:染付。見込蝶文／窯詰:高 台内粗砂付着	灰白色 粉質	肥前	1630～ 50年代	「初期伊万里」	12-27
28-22	J-14	磁器	碗	24	II d層	口径: <11.6> 底径: 7.0 器高: 6.1	成形:ロクロ,削り出し高台／文様:染付。見込1重圓線内に果実文,外面体部 区画割石榴文	白色 粉質	肥前	1770～ 1810年代	「広東碗」	12-28
28-23	J-15	磁器	碗	24	II d層	口径: (8.8) 底径: 3.5 器高: 5.2	成形:ロクロ,削り出し高台,端反形／文様:見込1重圓線内に草花文,外面体部 山水楼閣文	白色 ガラス質	瀬戸美濃	1820～ 40年代		12-29
28-24	J-16	磁器	碗	24	II d層	口径: <7.0> 底径: - 器高: (4.6)	成形:ロクロ／文様:見込1重圓線,内面口縁部四方捺文,外面体部上・中位花 弁の中に蝶文,体部下位輪繋ぎ文	灰白色 粉質	肥前	18世紀後半	「筒形碗」	12-30
-	J-17	磁器	皿	24	II d層	口径: - 底径: - 器高: -	成形:ロクロ,削り出し高台／文様:見込2重圓線内に文様あり／焼成:虫食い あり	白色 粘土質	中国・ 景德鎮	1600～ 40年代		12-31
28-25	I-15	陶器	碗	24	II d層	口径: (6.6) 底径: (3.0) 器高: 3.4	成形:ロクロ,削り出し高台／釉:内面～外面体部糖白釉	灰白色 緻密	大堀相馬	1730～ 1800年代	内面鉄銹付着	12-32
28-26	I-16	陶器	皿	24	II d層	口径: - 底径: 4.3 器高: (3.3)	成形:ロクロ,削り出し高台／釉:内面青銀釉の上から外面体部上半灰釉(透 明),見込に蛇の目釉剥ぎ	灰白色 緻密	唐津	1650～ 1730年代	「青銀釉輪禿皿」	12-33
28-27	I-17	陶器	皿	24	II d層	口径: 11.2 底径: 7.0 器高: 2.0	成形:ロクロ,削り出し高台／釉:全面長石釉／窯詰:高台内目痕3個／焼成:や や不良で器面白濁	黑灰色 やや粗い	瀬戸美濃	1590～ 1630年代		12-34
28-28	I-18	陶器	行平	24	II d層	口径: 14.0 底径: 6.5 器高: 7.5	成形:ロクロ,片口部は体部に半月形に穿孔し,板状の粘土を丸めて貼付,把手は別成 形で貼付(中空)／釉:内面と片口部,把手周辺のみ灰釉(透明),それ以外無釉,外面体 部上半輪轉の横線文2条／文様:外面体部上半回転カソナ痕	黄白色 緻密	大堀相馬	19世紀前半	外面体部下半以下煤ける	12-35
28-29	J-18	磁器	碗	27	I 層	口径: <6.3> 底径: (2.5) 器高: 3.0	成形:ロクロ,削り出し高台／文様:染付。外面体部横線文,高台内1重圓線	白色 粉質	肥前	18世紀前半	漆継ぎ	12-36
28-30	J-19	磁器	皿	27	I 層	口径: <21.5> 底径: <11.2> 器高: 3.3	成形:ロクロ,削り出し高台／釉:生掛け／文様:染付。見込山水樓閣文,内面体 部菊花唐草文	白色 粉質	肥前	1630～ 50年代	「初期伊万里」,被熱	12-37



第4表 陶磁器観察表 (3)

図中番号	登録番号	種別	器種	トレンチ番号	遺構名・出土位置	法量(cm)	成形・釉・文様等	胎土色 陶質	生産地	年代	備考	写真図版
29-56	J-50	青磁	香炉	63	II層	口径: <16.1 底径: - 器高: (4.6)	成形:ロクロ／釉:内外面青磁釉(緑灰色)／文様:外面肩部に丸ノ状工具による横位の沈線文	灰白色 やや粗い	中国・竜泉窯	16世紀		13-75
29-57	I-26	陶器	台付皿	73	I層	口径: - 底径: 5.8 器高: (3.1)	成形:ロクロ,脚台部は貼付で,下部は逆「く」の字形に屈曲する／釉:全面長石釉／文様:鉄と黄土で,見込文様あり,外面体部へ高台部鉄で圈線文	灰白色 粗い	瀬戸美濃	1610～ 20年代	漆縫ぎ	13-76
30-58	J-51	磁器	皿	74	IIIa層	口径: <13.6 底径: 5.5 器高: 4.5	成形:ロクロ,削り出し蛇の目高台,端反形／釉:豊付～高台内無釉／文様:染付。見込一葉に「雅」の文字文／窯詰:豊付周囲粗砂付着	白色 やや粗い	中国・景德镇	1600～ 40年代	高台外側の体部下位に回るような擦痕,被熱,写真図版13-82と同器形・文様	13-77
30-59	J-52	磁器	皿	74	IIIa層	口径: <24.0 底径: (11.2) 器高: 3.9	成形:ロクロ,削り出し高台,外面体部下半～高台内回転カンナ削り痕,萼皿／文様:染付。芙蓉手,見込草花文,内面体部区画割草花文／窯詰:高台周囲粗砂付着	白色 粘土質	中国・景德镇	1600～ 40年代	「芙蓉手」中皿。写真図版13-78-87・88-89・90-91・92は同器形・文様	13-78
30-60	J-53	磁器	皿	74	IIIa層	口径: <2.0 底径: - 器高: (2.4)	成形:ロクロ,口縁部輪花形,萼皿／釉:口禿／文様:染付。内面体部上半草花文	白色 粘土質	中国・景德镇	1600～ 40年代		13-79
-	J-54	磁器	碗	74	IIIa層	口径: - 底径: - 器高: -	成形:ロクロ／文様:染付。外面口縁部雷文,外面体部秋草文。口銘	白色 粉質	肥前	1670～ 1710年代		13-80
-	J-55	磁器	皿	74	IIIa層	口径: - 底径: - 器高: -	成形:ロクロ／文様:染付。内面体部花唐草文,外面ハート唐草文	白色 粉質	肥前	18世紀前半		13-81
-	J-56	磁器	碗	74	IIIa層	口径: - 底径: - 器高: -	成形:ロクロ,端反形／文様:染付。内面体部文様あり	白色 やや粗い	中国・景德镇	1600～ 40年代	被熟,写真図版13-77と同器形・文様	13-82
-	J-57	磁器	碗	74	IIIa層	口径: - 底径: - 器高: -	成形:ロクロ,端反形,口縁部輪花形か,体部型打か／文様:外外面体部花文か	白色 粘土質	中国・景德镇	1600～ 40年代		13-83
-	J-58	磁器	碗	74	IIIa層	口径: - 底径: - 器高: -	成形:ロクロ,端反形／文様:染付。外面体部蔬菜文	白色 粘土質	中国・景德镇	1600～ 40年代	写真図版13-84-85-86は同器形・文様	13-84
-	J-59	磁器	碗	74	IIIa層	口径: - 底径: - 器高: -	成形:ロクロ／文様:外外面体部蔬菜文(墨彈き)	白色 粘土質	中国・景德镇	1600～ 40年代	写真図版13-84-85-86は同器形・文様	13-85
-	J-60	磁器	碗	74	IIIb層	口径: - 底径: - 器高: -	成形:ロクロ,削り出し蛇の目高台,外面高台部回転カンナ削り痕／釉:豊付～高台内無釉／文様:染付。外面体部文様あり	白色 粘土質	中国・景德镇	1600～ 40年代	写真図版13-84-85-86は同器形・文様	13-86
-	J-61	磁器	皿	74	IIIa層	口径: - 底径: - 器高: -	成形:ロクロ,外外面体部下半～高台内回転カンナ削り痕,萼皿形／文様:染付。内面体部区画割草花文,外外面体部文様あり	白色 粘土質	中国・景德镇	1600～ 40年代	「芙蓉手」中皿。写真図版13-78-87・88-89・90-91・92は同器形・文様	13-87
-	J-62	磁器	皿	74	IIIa層	口径: - 底径: - 器高: -	成形:ロクロ,萼皿形／文様:染付。内面体部区画割草花文／焼成:口唇部虫食い	白色 粘土質	中国・景德镇	1600～ 40年代	「芙蓉手」中皿。写真図版13-78-87・88-89・90-91・92は同器形・文様	13-88
-	J-63	磁器	皿	74	IIIa層	口径: - 底径: - 器高: -	成形:ロクロ／文様:染付。内面体部花文／焼成:やや不良で内面白渦,口唇部虫食い	白色 粘土質	中国・景德镇	1600～ 40年代	「芙蓉手」中皿。写真図版13-78-87・88-89・90-91・92は同器形・文様	13-89
-	J-64	磁器	皿	74	IIIa層	口径: - 底径: - 器高: -	成形:ロクロ／文様:染付。内面体部花文	白色 粘土質	中国・景德镇	1600～ 40年代	「芙蓉手」中皿。写真図版13-78-87・88-89・90-91・92は同器形・文様	13-90
-	J-65	磁器	皿	74	IIIa層	口径: - 底径: - 器高: -	成形:ロクロ,外外面体部下半回転カンナ削り痕,萼皿形／文様:染付。内面体部区画割文,外外面体部文様あり	白色 粘土質	中国・景德镇	1600～ 40年代	「芙蓉手」中皿。写真図版13-78-87・88-89・90-91・92は同器形・文様	13-91
-	J-66	磁器	皿	74	IIIa層	口径: - 底径: - 器高: -	成形:ロクロ,削り出し蛇の目高台,外外面体部下位～高台内回転カンナ削り痕／文様:染付。見込文様あり／窯詰:豊付周囲粗砂付着／焼成:虫食いあり	白色 粘土質	中国・景德镇	1600～ 40年代	「芙蓉手」中皿。写真図版13-78-87・88-89・90-91・92は同器形・文様	13-92
30-61	I-27	土師質土器	カワラケ	74	IIIa層	口径: 7.7 底径: 5.4 器高: 2.2	成形:ロクロ,底部回転糸切り痕(左)	橙色 やや粗い	在地	17世紀か		13-93
30-62	I-28	土師質土器	カワラケ	74	IIIa層	口径: - 底径: 7.2 器高: 2.6	成形:ロクロ,底部回転糸切り痕(中心)	橙色 やや粗い	在地	17世紀か		13-94
30-63	J-67	磁器	蓋物	75	I～II層	口径: <7.2 底径: <4.0 器高: 3.9	成形:ロクロ,削り出し高台／釉:内面白縁部無釉／文様:白磁	白色 粉質	肥前	19世紀前半		14-95
-	J-68	磁器	碗	75	I～II層	口径: - 底径: - 器高: -	成形:ロクロ／文様:外外面体部仙芝祝寿文	白色 粘土質	中国・景德镇	1800～ 30年代		14-96
-	J-69	磁器	碗	75	I～II層	口径: - 底径: - 器高: -	成形:ロクロ,削り出し高台／釉:豊付～高台内無釉／文様:染付。見込文様あり	白色 やや粗い	中国・景德镇	1600～ 40年代	被熟	14-97
30-64	J-70	磁器	皿	76	I～II層	口径: 9.8 底径: 7.0 器高: 2.1	成形:ロクロ,削り出し蛇の目四型高台／釉:蛇の目高台無釉／文様:染付。見込三才割花文,内面体部花文,外外面体部唐草文／焼成:やや不良で器面白渦	白色 粉質	肥前	1770～ 1800年代		14-98
30-65	J-71	磁器	碗	77	II層	口径: <7.0 底径: <2.1 器高: 4.0	成形:ロクロ,削り出し高台,端反形／文様:染付。見込1重圏線内に文様あり,外外面体部窓絵文	白色 ガラス質	瀬戸美濃	1820～ 40年代		14-99
30-66	J-72	磁器	皿	77	II層	口径: - 底径: <16.0 器高: (4.0)	成形:ロクロ,削り出し高台,高台内回転カンナ削り痕,萼形／文様:染付。見込よりざみ文,内面体部区画割七宝文,外外面体部区画割文／窯詰:豊付周囲粗砂付着	白色 粘土質	中国・景德镇	1600～ 40年代	被熟	14-100
30-67	J-73	磁器	皿	78	II層	口径: <19.0 底径: <11.2 器高: 2.7	成形:ロクロ,削り出し高台,すっぽん口形／文様:染付。見込・内面体部牡丹文,外外面体部文様あり	白色 粉質	肥前	1770～ 1800年代		14-101
30-68	I-29	陶器	碗	78	II層	口径: <9.9 底径: <3.6 器高: 6.0	成形:ロクロ,削り出し蛇の目四型高台／釉:蛇の目高台無釉／文様:染付。見込三才割花文,内面体部花文,外外面体部唐草文／焼成:やや不良で器面白渦	灰白色 緻密	大堀相馬	18世紀後半		14-102
30-69	J-74	磁器	皿	79	II層	口径: <10.4 底径: <5.2 器高: 2.2	成形:ロクロ,削り出し高台／文様:染付。内面山水樓閣文,外外面体部唐草文／焼成:焼きすぎで器面発泡	白色 粉質	肥前	1770～ 1850年代		14-103
-	J-75	磁器	碗	79	II層	口径: - 底径: - 器高: -	成形:ロクロ,削り出し蛇の目四型高台／釉:蛇の目高台内無釉／文様:染付。残存部には文様なし,高台外側に2重圏線あり	白色 粘土質	中国・景德镇	1600～ 40年代		14-104
30-70	I-30	陶器	碗	79	II層	口径: - 底径: 4.2 器高: (1.2)	成形:ロクロ,削り出し高台／釉:付着物のため看取不能	灰白色 緻密	大堀相馬	18世紀か	内外面共被熟し,溶着物あり(使用痕と推定)	14-105
30-71	I-31	陶器	鉢	79	II層	口径: <8.6 底径: <5.0 器高: 4.2	成形:ロクロ,基盤底,端反形／釉:内面～外外面体部緑釉,高台内無釉／窯詰:高台隙内側に目痕2個残／焼成:焼きすぎで釉はぜる	褐灰色 粗砂粗い	瀬戸美濃	1600～ 10年代	「總織部」	14-106
30-72	J-76	磁器	碗	80	I～II層	口径: - 底径: 3.6 器高: (3.2)	成形:ロクロ,削り出し蛇の目高台／釉:蛇の目高台無釉／文様:木型成形(陰刻)で見込布袋文の上にダメ塗り,外外面体部草花文／窯詰:豊付に輪状の窯道具痕／焼成:やや不良で器面白渦	白色 ガラス質	地方窯	1855～ 80年代		14-107
30-73	I-32	陶器	鉢	80	I～II層	口径: - 底径: 6.1 器高: (5.9)	成形:ロクロ,口縁部に押压痕／釉:内外面灰釉(横灰色)の上から内外面口縁部鉄釉(暗褐色)	黃白色 黑色粗砂粗い	地方窯	19世紀前半		14-108
30-74	I-33	陶器	灰吹	80	I～II層	口径: - 底径: 6.1 器高: -	成形:ロクロ,削り出し高台／釉:外外面体部糖白釉,内面・高台内無釉／焼成:豊付に溶着痕	灰白色 緻密	大堀相馬	19世紀前半		14-109
30-75	I-34	陶器	壺	80	SK1 1層目	口径: - 底径: - 器高: -	成形:ロクロ,削り出し高台／釉:内面～外外面体部上・中位鉄釉(黒色),外外面体部下位以下無釉／窯詰:見込目痕2個残(台形の目痕,筒形の下部を抉った窯道具本來は円形に残る)	黒砂 緻密	堤燒	19世紀前半		14-110

第5表 瓦観察表

法量欄:単位cm。&lt;&gt;内は復元値,( )内は残存値

図中番号	登録番号	種別	器種	レンチ番号	遺構名・出土位置	文様	瓦当部			文様区		備考	写真図版
							径	周縁幅	周縁高	厚	徑		
31-76	F-1	瓦	軒丸瓦	1	SX1 1層目	珠文三巴文	14.7	0.5~0.8	0.6	2.3	11.3	巴左巻、珠文数21、珠径0.8cm。	14-111
図中番号	登録番号	種別	器種	レンチ番号	遺構名・出土位置	文様	瓦当部			文様区		備考	写真図版
31-77	G-1	瓦	軒平瓦	1	SX1 1層目	菊花文	(8.5)	(3.6)	2.2	(8.0)	(2.4)		14-112
図中番号	登録番号	種別	器種	レンチ番号	遺構名・出土位置	長	幅	高	厚	幅	高	備考	写真図版
31-78	H-1	瓦	輪違い瓦	1	SX1 1層目	14.7	(8.4)	(10.8)	凹面布目。				14-113
31-79	H-2	瓦	輪違い瓦	1	SX1 1層目	15.6	(4.5)	(10.4)	凹面布目。				15-114
図中番号	登録番号	種別	器種	レンチ番号	遺構名・出土位置	文様	瓦当部			文様区		備考	写真図版
31-80	G-2	瓦	軒平瓦	9	I層	文様不明	(12.3)	4.3	1.2	2.1	(7.8)	瓦当右側縁は斜位。軒棟瓦軒平部の可能性あり。	15-115
図中番号	登録番号	種別	器種	レンチ番号	遺構名・出土位置	文様	瓦当部			文様区		備考	写真図版
31-81	G-3	瓦	軒平瓦	15	擾乱	桔梗文(劍桔梗)細形	(14.0)	6.2	(2.4)	3.4	(10.5)	瓦当面にはなれ砂。	15-116
図中番号	登録番号	種別	器種	レンチ番号	遺構名・出土位置		丸部					備考	写真図版
						文様	瓦当径	周縁幅	周縁高	瓦当厚	文様区径		
31-82	H-3	瓦	軒棟瓦軒丸・軒平部	22	I層	三巴左巻文	7.5	0.8~18.0	0.4	0.9	5.0		15-117
図中番号	登録番号	種別	器種	レンチ番号	遺構名・出土位置	文様	瓦当幅	瓦当高	瓦当厚	文様区幅	文様区高	備考	写真図版
						均整唐草文(江戸式)	(9.7)	4.5	1.8	(7.0)	(2.5)		
						丸部						備考	写真図版
						文様	瓦当径	周縁幅	周縁高	瓦当厚	文様区径		
31-83	H-4	瓦	軒棟瓦軒丸・軒平部	54	IIa層	三巴左巻文	7.4	1.0	0.4	1.8	5.0		15-118
図中番号	登録番号	種別	器種	レンチ番号	遺構名・出土位置	文様	瓦当幅	瓦当高	瓦当厚	文様区幅	文様区高	備考	写真図版
						均整唐草文(江戸式)	(8.0)	4.1	1.7	(7.0)	(2.8)		

第6表 金属製品 古銭観察表

法量欄:単位cm。&lt;&gt;内は復元値,( )内は残存値

図中番号	登録番号	種別	器種	レンチ番号	遺構名・出土位置	外径(cm)	孔径(cm)	重量(g)	備考			写真図版
									長さ	幅	厚さ	
31-84	N-1	金属製品	古銭	24	II d層	2.4	0.6	6.5	2枚固着 古寛永通宝(初鋳年1636年)、新寛永通宝(初鋳年1697年)。			15-119
31-85	N-2	金属製品	古銭	24	II d層	2.4	0.6	3.4	古寛永通宝(初鋳年1636年)。			15-120
31-86	N-3	金属製品	古銭	24	II d層	2.5	0.6	6.2	2枚固着 新寛永通宝(初鋳年1697年)、銭名不明。			15-121
31-87	N-4	金属製品	古銭	24	II d層	2.4	0.6	6.9	2枚固着 新寛永通宝(初鋳年1697年)、銭名不明。			15-122
31-88	N-5	金属製品	古銭	24	II d層	2.4	0.6	30.9	10枚固着 古寛永通宝(初鋳年1636年)1枚、銭名不明9枚。			15-123
31-89	N-6	金属製品	古銭	24	II d層	2.4	0.6	2.5	古寛永通宝(初鋳年1636年)。			15-124
31-90	N-7	金属製品	古銭	24	II d層	2.2	0.7	1.9	古寛永通宝(初鋳年1636年)。			15-125
31-91	N-8	金属製品	古銭	24	II d層	2.2	0.6	2.6	新寛永通宝(初鋳年1697年)。			15-126
31-92	N-9	金属製品	古銭	29	III層	2.4	0.7	1.6	至道元宝(初鋳年995年)。			15-127
31-93	N-10	金属製品	古銭	39	SX1 1層目	2.3	0.6	2.6	古寛永通宝(初鋳年1636年)。			15-128
31-94	N-11	金属製品	古銭	80	SK1 底面直上	4.9×3.2	0.8	22.0	天保通宝(初鋳年1835年)。			15-129
-	N-12	金属製品	古銭	80	SK1 底面直上	2.4	0.6	180	50枚固着 銭名不明。			15-130

第7表 金属製品 釘観察表

法量欄:単位cm。&lt;&gt;内は復元値,( )内は残存値

図中番号	登録番号	種別	器種	レンチ番号	遺構名・出土位置	法量(cm)			特徴			写真図版
						長さ	幅	厚さ				
-	N-13	金属製品	釘	73	SK4 3層目	(0.9)	0.2~0.5	0.2~0.5	(5.3g)頭部長1.0cm、頭部厚0.2cm。頭は平たくL字状に折れる。鉄製。			15-131
-	N-14	金属製品	釘	80	SK1 底面直上	6.0	(0.2~0.5)	0.6~0.3	(10.4g)L字状に湾曲。鉄製。全長8.5センチ。			15-132

第8表 土製品観察表

法量欄:単位cm。&lt;&gt;内は復元値,( )内は残存値

図中番号	登録番号	種別	器種	レンチ番号	遺構名・出土位置	法量(cm)			備考			写真図版
						長さ	幅	厚さ				
-	P-1	土製品	湯口	24	SX3 1層目	直径10.2、内径6.2、幅0.2、高さ3.3、厚さ2.1			裏面は細い工具による乱雑な溝がみられる。鉄鋸付着。			15-133
-	P-2	土製品	鋳型	24	SX3 1層目	長さ12.3、幅8.9、厚さ2.1			径約1.5cmの半球状の溝みが8つ。ロート状の溝みあり。			15-134

## 第6章 まとめ

今回の調査では、溝跡2条、土坑15基、性格不明遺構17基、ピット11を検出した。調査範囲は限られたものであったが、遺跡範囲の全体的な基本層序と、近世、近代の遺構、遺物を確認した。

基本層序としては現表土層から砂礫層までI～VII層に区分することができた。今回の調査範囲は遺跡範囲の北半部を占めるが、この層序は、これまで3次にわたって実施された調査の層序と符合するものであり、今回の遺跡調査で遺跡全体の基本層序がほぼ確定できたといえる。

調査範囲は近世の絵図によると、伊達家重臣の「伊達安藝殿」屋敷地や「柴田外記」屋敷地、仙台藩御用をつめていた御職人の屋敷地と推定される地区であった(第32図)。今回の調査では、これらの武家屋敷に関わるものとみられる遺構や遺物が検出された。

### 近世の遺構

調査区から検出された近世遺構で注目されるものとして1トレンチSX1、26トレンチSX1、80トレンチSK1の3基である。調査範囲中央部の東側に位置する3調査区から検出された。1トレンチSX1は大型礫で区画された礫集中範囲であるが、遺構周辺から近世の埴瓦や軒丸瓦、輪違い瓦が出土していることから埴基礎跡、あるいは門跡の可能性が考えられる。『明治元年現状仙台城市之図』(明治元(1868)年、以下「明治絵図」と略す)では伊達安芸屋敷裏手に通用門と埴が描かれている(第33図)。26トレンチSX1は石列であるが、平成19年度の試掘調査で検出された石列と一連のものであり、「安政絵図」にみえる伊達安藝殿屋敷地の東側を区画する道路に重なるものとみられる。

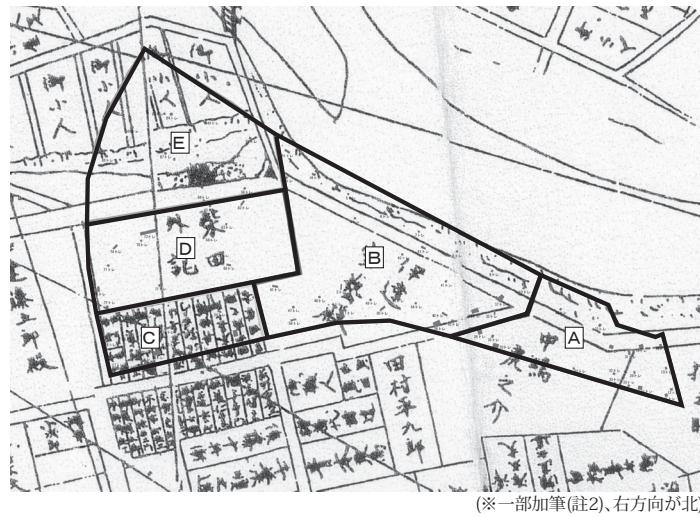
80トレンチSK1では、上層から19世紀前半とみられる堤焼壺片が出土しており、遺構底面からは鉄銭を含む約50枚分の縁錢が天保通宝(初鋸1835年)や寛永通宝とともに出土しており、なんらかの埋納行為にともなうものと考えられる。

### 近世の遺物

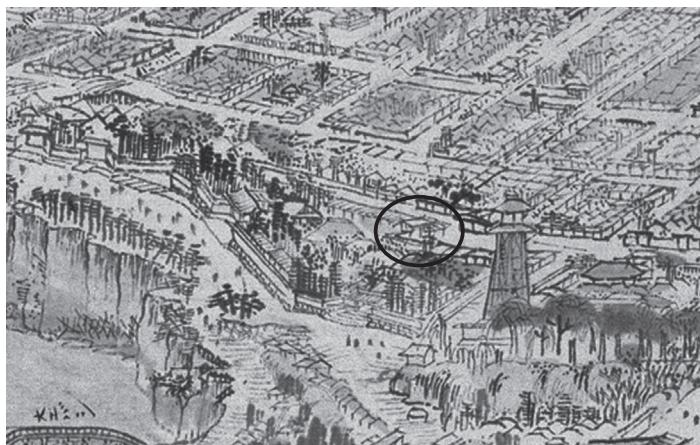
調査区内から出土した近世遺物は、大半が堆積土からのものであり、遺構に伴うものはわずかであった。陶磁器類で見ていくと調査区南部(第32図-D)に位置する74トレンチから小片ながら17世紀初頭の貿易陶磁が出土しており(図版30-58～60、図版13-82～92)、21、54トレンチから17世紀前半の初期伊万里が出土している(図版12-27、54)。出土遺物の年代はこれらを最古期とし、19世紀前半から中葉、幕末以後にかけての遺物が出土する。製品としては肥前陶磁を中心に瀬戸・美濃陶磁器がみられる。小野相馬焼はほとんど出土せず、大堀相馬焼、堤焼、切込焼の碗、皿が出土している。概観すると17世紀代と19世紀前半の遺物が多く出土しているが、16トレンチではこれらの遺物が同じ層中から出土しており、土層が搅乱されていることがうかがえる。出土量としては19世紀前半の遺物が半数以上を占めるが、当該期の土地利用率の高さを示すものではなく、流通と地方窯の発達に伴う物量増加によるものとみられる。

今回の調査で特筆される遺物として、調査範囲中央部(第32図-B)に位置する37トレンチのⅢ層から出土した18世紀中葉の所産とみられる鍋島焼の小片があげられる(図版12-42、43)。七寸皿の破片で内面体部に草花文、外面体部に七宝結文が染付けられている。堆積土からの出土であるが、鍋島焼の県内出土例としては大崎市松山町の上野館跡Ⅲ区SX01(池跡)出土遺物、仙台城二の丸北方武家屋敷跡の池跡出土の小皿片に続いて県内では三例目となる遺物である。

調査区内で出土した貿易陶磁や鍋島焼などの器形は実用的な碗、皿類で占められており、使用者の高い階層を表



第32図 「安政絵図」の屋敷地と調査範囲



第33図 明治元年現状仙台城市之図

すものといえる。

瓦に関しては今回の調査で近世の所産と考えられるものは1トレンチ出土のものが大半を占めており、他の調査区からの出土はわずかであった。1トレンチでは珠文三巴軒丸瓦や輪違い瓦が出土した。また、菊花文に似た八花弁を瓦当文様に持つ軒平瓦が出土した。この瓦は仙台城跡の瓦分類に含まれない瓦当文様を持つ近世瓦である。22、54トレンチからは江戸式の均整唐草文を瓦当文様に持つ軒桟瓦が各1点出土している。仙台藩では上級家臣の屋敷でも瓦葺は行なわれず、板葺きの一種である柿葺であった（仙台市史編さん委員会 2003）。瓦葺を施すのは門や堀などに限られており、『慶応元年仙台城下絵図』、「明治絵図」では、伊達安藝屋敷や柴田外記屋敷で、母屋と堀とで板葺と瓦葺が描き分けられている。今回出土した近世瓦も、堀あるいは門に使われた可能性がある。

#### 近代の遺構

近代の遺構として特筆されるのは、73トレンチSK1・2、6～9である。布掘り状の溝によって連結する基礎構造をもつ礎石群である。同様の基礎構造を持つ礎石群が仙台城二の丸北方武家屋敷第4地点の5号建物跡として報告されている（東北大学埋蔵文化財調査研究センター 2000）。報告文では近代以後の建物とされており、73トレンチSK1・2、6～9も同時期のものと考えられる。主軸方向がほぼ揃っていることから、東西棟の建物基礎跡と考えられる。近代以降、戦中まで73トレンチの位置する公園南部一帯は仙台偕行社の敷地となっており、戦後には公園として整備され建物は建てられなかったことから、本遺構群は偕行社に関わる建造物にともなう基礎跡と考えられる。

## 註

1. 第2図で用いた絵図は、今野印刷 1994『絵図・地図を見る仙台』及び 2005『絵図・地図を見る仙台第二輯』、風の時編集部 2009『100年前の仙台を歩く 仙台地図さんぽ』の一部を転載・加筆した。伊達安藝殿屋敷跡の東側道路側縁をもとに角度を変更した。
2. 第32図で行なった加筆部分は、26トレンチと平成19年度の試掘調査で検出された石列ラインを伊達安芸屋敷の東側道路側縁とし、屋敷地北角部を基準にした上で、第2図-9の地図と公園範囲を合わせたものを合成して縮尺を調整した。

## <引用・参考文献>

小川恭一編	1992『江戸幕藩大名家事典 上巻』原書房
風の時編集部	2009『100年前の仙台を歩く 仙台地図さんぽ』
金子 智	2000「瓦から見た江戸と国元」『江戸遺跡研究会第13回大会 江戸と国元〔発表要旨〕』江戸遺跡研究会
工藤寛正編	2008『江戸時代全大名家事典』東京出版
今野印刷	1994『絵図・地図を見る仙台』
今野印刷	2005『絵図・地図を見る仙台第二輯』
閔根達人	1998「相馬藩における近世窯業生産の展開」『東北大学埋蔵文化財調査年報』10 東北大学埋蔵文化財調査研究センター
仙台市教育委員会	2005『仙台市高速鉄道東西線関係遺跡発掘調査(1)概要報告』仙台市文化財調査報告書289集
仙台市教育委員会	2005『仙台城本丸跡1次調査—石垣修復工事に伴う発掘調査報告書—』第3分冊 出土遺物編 仙台市文化財調査報告書282集
仙台市教育委員会	2006『仙台城本丸跡1次調査—石垣修復工事に伴う発掘調査報告書—』第2分冊 遺構編 仙台市文化財調査報告書298集
仙台市教育委員会	2007『桜ヶ岡公園遺跡—第2次調査報告書—』仙台市文化財調査報告書318集
仙台市教育委員会	2008『桜ヶ岡公園遺跡—第3次調査報告書—』仙台市文化財調査報告書335集
仙台市教育委員会	2009『仙台城本丸跡1次調査—石垣修復工事に伴う発掘調査報告書—』第1分冊 本文編 仙台市文化財調査報告書349集
仙台市教育委員会	2009『仙台城跡—追廻地区遺構確認調査—』仙台市文化財調査報告書350集
仙台市史編さん委員会	2001『仙台市史 通史編3 近世1』
仙台市史編さん委員会	2003『仙台市史 通史編4 近世2』
仙台市史編さん委員会	2004『仙台市史 通史編5 近世3』
仙台市史編さん委員会	2008『仙台市史 通史編6 近代1』
仙台市史編さん委員会	2009『仙台市史 通史編7 近世2』
東北大学埋蔵文化財調査研究センター	2000『東北大学埋蔵文化財調査年報13 仙台城二の丸北方武家屋敷跡第4地点の調査』
東北陶磁文化館	1987『東北の近世陶磁』



# 写 真 図 版





i.1 トレンチ遺構検出状況（東から）



ii.1 トレンチIIIb面遺物出土状況（西から）



iii.1 トレンチSX1検出状況（南東から）



iv.1 トレンチ南壁土層断面状況（北から）



v.1 トレンチ西壁土層断面状況（東から）

写真図版1



i.2 トレンチ南壁土層断面状況（北から）



ii.4 トレンチ北壁土層断面状況（南から）



iii.7 トレンチ西壁土層断面状況（東から）



iv.9 トレンチ東壁土層断面状況（西から）



v.10 トレンチ東壁土層断面状況（西から）



vi.16 トレンチ遺構検出状況（南から）



vii.16 トレンチ遺構完掘状況（南から）



viii.16 トレンチ北壁土層断面状況（南から）

写真図版 2



i.17 トレンチ遺構検出状況（南から）



ii.17 トレンチ東壁土層断面（西から）



iii.20 トレンチ西壁土層断面（東から）



iv.21 トレンチ遺構検出状況（北から）



v.24 トレンチ SX2 南北土層断面（東から）



vi.24 トレンチ SX2 完掘全景



vii.24 トレンチ SX3 南北土層断面（東から）



viii.24 トレンチ SX3 遺物出土状況（東から）

写真図版 3



i .24 トレンチ完掘全景（東から）



ii .25 トレンチ東西土層断面（南から）



iii .25 トレンチ遺構検出状況（西から）



iv .26 トレンチ遺構検出状況（東から）



v .26 トレンチ SX1 検出状況（南から）



vi .26 トレンチ西壁土層断面（東から）



vii .30 トレンチ東壁土層断面（西から）



viii .32 トレンチ北壁土層断面（南から）

写真図版4



i.34 トレンチ東壁土層断面（西から）



ii.37 トレンチⅢ面検出状況（西から）



iii.37 トレンチ北壁土層断面（南から）



iv.38 トレンチ北壁土層断面（南から）



v.39 トレンチ遺構検出状況（西から）



vi.39 トレンチ南壁土層断面（北から）



vii.39 トレンチ遺構検出状況（東から）



viii.50 トレンチ完掘全景（北から）

写真図版 5



i.50 トレンチ東壁土層断面（西から）



ii.51 トレンチ東壁土層断面（東から）



iii.54 トレンチ遺構検出状況（北から）



iv.54 トレンチ完掘全景（南から）



v.56 トレンチ遺構検出状況（北から）



vi.56 トレンチ完掘全景（西から）



vii.57 トレンチSK1南北土層断面（西から）



viii.57 トレンチSK2南北土層断面（東から）

写真図版6



i .57 トレンチ西壁土層断面（東から）



ii .58 トレンチ遺構検出状況（北から）



iii .58 トレンチ完掘全景（北から）



iv .58 トレンチ西壁土層断面（東から）



v .69 トレンチ遺構検出状況（東から）



vi .69 トレンチ SD1 東西土層断面（南から）



vii .69 トレンチ SK1 南北土層断面（西から）



viii .69 トレンチ遺構完掘全景（北から）

写真図版 7



i .69 トレンチ東壁土層断面（西から）



ii .73 トレンチ遺構検出状況（南から）



iii .69 トレンチ SK3 東西土層断面（南から）



iv .69 トレンチ SK4 東西土層断面（南から）



v .73 トレンチ拡張後遺構検出状況（北から）



vi .73 トレンチ SK8・9 検出状況（西から）



vii .73 トレンチ SK8・9 間溝南北土層断面（東から）



viii .73 トレンチ SK9 南北土層断面（西から）

写真図版8



i .73 トレンチ遺構検出全景（南から）



ii.73 トレンチ SK6 南北土層断面（西から）



iii.73 トレンチ SK1 南北土層断面（西から）



iv.74 トレンチ遺構検出状況（南から）



V.74 トレンチ東壁土層断面（西から）

写真図版 9



i.75 トレンチ遺構検出状況（西から）



ii.75 トレンチ南壁土層断面（北から）



iii.80 トレンチ遺構検出状況（西から）



iv.80 トレンチ SK1 検出状況（北から）



v.80 トレンチ SK1 遺物出土状況（東から）



vi.80 トレンチ SK1 完掘全景（西から）



vii.83 トレンチ東壁土層断面（西から）



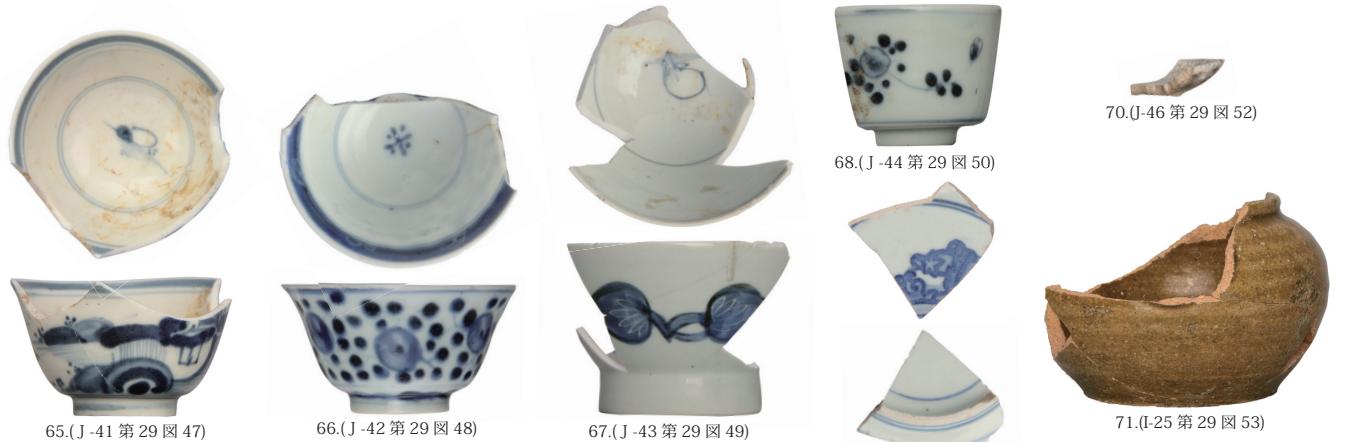
viii.87 トレンチ北壁土層断面（南から）

写真図版 10



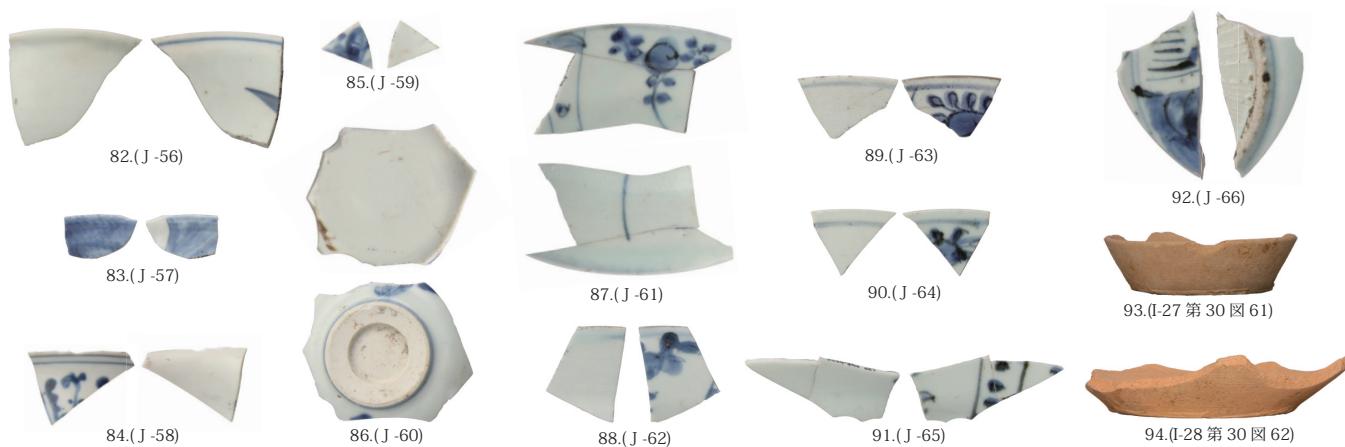
写真図版 11  
20.トレンチ





59 トレンチ

69.(J-45 第 29 図 51)



74 トレンチ



写真図版 14



73トレンチ

80トレンチ

24トレンチ

報告書抄録

ふりがな	さくらがおかこうえんいせき							
書名	桜ヶ岡公園遺跡							
副書名	第4次発掘調査報告書							
シリーズ名	仙台市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第378集							
編著者名	鈴木隆・庄子裕美・関根信夫							
編集機関	仙台市教育委員会							
所在地	〒980-8671 宮城県仙台市青葉区二日町1番1号 電話 022-214-8894							
発行年月日	2010年11月29日							
所収遺跡名	ふりがな 所在地	ふりがな 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
さくらがおかこうえんいせき 桜ヶ岡公園遺跡	せんだいあねばさくらがおかこうえん 仙台市青葉区桜ヶ岡公園 3-1, 3-2地内	04100	05162	38° 15' 44"	140° 51' 43"	20100531 ～ 20100831	約 421 m <sup>2</sup>	西公園再整備事業 に伴う埋蔵文化財 の発掘調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
さくらがおかこうえんいせき 桜ヶ岡公園遺跡	屋敷跡	近世 近代	性格不明遺構 土坑 溝跡 石組み遺構 礎石跡	磁器・陶器 土師質土器 瓦類・金属製品	県内で三例目となる鍋島焼(七寸皿)破片が伊達安芸屋敷跡と 考えられる地区から出土した。			
要約	<p>桜ヶ岡公園遺跡は仙台市青葉区桜ヶ岡公園地内を包括する東西約350m、南北約650mを範囲とする。本遺跡は広瀬川の左岸に形成された中町段丘面の西端域に立地しており、今回の調査地点は遺跡範囲の北半部に相当する。</p> <p>本遺跡周辺は江戸時代を通じて伊達安芸、柴田外記といった伊達家の上級家臣の屋敷地として利用された。発掘調査の結果、溝跡2条、土坑15基、性格不明遺構17基、ピット11を発見した。出土遺物は江戸時代前期から近代にかけての磁器、陶器、土師質土器、瓦類、金属製品(古錢、釘)である。</p> <p>性格不明な礎集中遺構からは近世瓦が多く出土しており、幕末の絵図にみえる伊達安芸屋敷境に関連をもつ構造物とみられる。近代の遺構としては、礎石間を布掘り状の溝で連結した建物基礎跡が検出され、礎石を2～3段に重ねている基礎構造を確認した。明治期から当該地に設立された仙台偕行社に関わる建物を支えていたものと考えられる。</p>							

仙台市文化財調査報告書第378集

**桜ヶ岡公園遺跡**

—第4次発掘調査報告書—

2010年11月

発行 仙台市教育委員会

〒980-8671 仙台市青葉区二日町1番1号

文化財課 022(214)8894

印刷 今野印刷株式会社

〒984-0011 仙台市若林区六丁の目西町2-10

022(288)6123